

Ⅲ 教学組織

1 看護学部・看護学科

【在籍者】

収容定員に対する在籍者数

(2012.4 現在)

学 年	収容定員	現 員 数	休学者数 (内数)	留年者数 (内数)
1 年	60	77	0	2
2 年	80	90	0	0
3 年	80	105	0	1
4 年	80	98	0	5
計	300	370 (123.3%)	0 (0%)	8 (2.2%)

【入学者】

学 部

《 》…男子内数

	学部一般	推薦/・帰国生入学		学士編入学	科目等履修生
募集要項配布期間	2012年8月～ 2013年1月	2012年7月～11月		2012年7月～9月	2013年2月～ 2013年3月
願書受付期間	2013年1月7日～ 1月21日	2012年10月15日～ 10月22日		2012年9月3日～ 9月7日	2013年2月20日～ 3月6日
募 集 人 員	75 (推薦・帰国生入学 15名程度を含む)	【推薦】 15	【帰国生】 若干名	20	各科目若干名
志願者数(倍率)	388 (5.2倍) 《16》	36 (2.4倍) 《0》	2 《0》	39 (2.0倍) 《3》	1
受 験 者 数	380 (5.1倍) 《16》	36 (2.4倍) 《0》	2 《0》	36 (1.8倍) 《3》	1
合 格 者 数	1次試験 183 《6》 2次試験 91 《3》	16 《0》	2 《0》	20 《2》	1
補 欠 者 数	51			3 《0》	
入学者数	62 《1》	16 《0》	2 《0》	19 《2》	

【卒業生】

	学部一般	編入生
卒業生数	72	22
入学時人数	75	20
上級から加わる	2	3
下級へ下がる	5	1
退学	0	0

【平均修得単位数】

平均修得単位数（学士編入生を除く）

		卒業所要 単位数	平均取得 単位数	最高取得 単位数	最低取得 単位数
教 養 科 目	教 養 科 目		25	50	18
	外 国 語 科 目	10	10	13	10
	小 計	28	35	60	28
基 礎 科 目		32	32	32	32
専 門 科 目		69	72	77	69
総 計		128	137	169	130

【国家試験結果】

国家試験結果

	受験者 (名)	合格者 (名)	合格率 (%)
保健師	92	90	97.8
看護師	93	91	97.8

【学部科目等履修生】

科目等履修生開講科目および履修者数(なし)

	授業科目	単位数
前 期	看護提供システムⅠ	2
	看護技術論	1
	老年看護学（基礎）	1
	急性期看護論Ⅲ	1
	学校保健	2
	養護概説	2
	看護研究Ⅰ	2
	看護ゼミナール（がん看護）	1
	看護ゼミナール（緩和ケア）	1
	看護ゼミナール（老年看護学実践ゼミ）	1
後 期	教育方法の研究	2
	教育制度論	2
	カウンセリング概論	2
	生涯発達論（成人・老年）	2
	老年看護学（急性期実践方法）	1
	看護政策論	2
	看護研究Ⅱ	3

【実習施設】

実習施設一覧表

	授業科目	単位数	施設名		授業科目	単位数	施設名
1	コミュニケーション 実習	1	聖路加国際病院	6	臨地実習A	2	神奈川県立 こども医療センター
2	基礎看護技術実習	1	聖路加国際病院	7	臨地実習B	2	聖路加国際病院
3	看護展開論実習	1	聖路加国際病院	8	臨地実習B	2	東府中病院
4	臨地実習A	2	聖路加国際病院	9	臨地実習C	2	聖路加国際病院
5	臨地実習A	2	済生会横浜市東部病院	10	臨地実習D	2	聖路加国際病院

	授業科目	単位数	施設名		授業科目	単位数	施設名
11	臨地実習E	2	永生会永生病院	43	臨地実習G	3	すみだ訪問看護 ステーション
12	臨地実習E	2	救世軍ブース記念病院	44	臨地実習G	3	医師会立品川区 訪問看護ステーション
13	臨地実習E	2	ブース記念老人保健施設 グレイス	45	臨地実習G	3	セコムとしま 訪問看護ステーション
14	臨地実習E	2	介護老人保健施設 リハポート明石	46	臨地実習G	3	セコム世田谷 訪問看護ステーション
15	臨地実習E	2	永生会老人保健施設 イマジン	47	臨地実習G	3	セコム田園調布 訪問看護ステーション
16	臨地実習F	2	東京武蔵野病院	48	臨地実習G	3	セコム吉祥寺 訪問看護ステーション
17	臨地実習G	3	杉並区荻窪 保健センター	49	臨地実習G	3	練馬区医師会立 訪問看護ステーション
18	臨地実習G	3	杉並区高井戸 保健センター	50	臨地実習G	3	自由が丘 訪問看護ステーション
19	臨地実習G	3	杉並区高円寺 保健センター	51	臨地実習G	3	白河訪問看護 ステーション
20	臨地実習G	3	杉並区上井草 保健センター	52	臨地実習G	3	板橋ロイヤル 訪問看護ステーション
21	臨地実習G	3	杉並区和泉 保健センター	53	臨地実習G	3	白十字訪問看護 ステーション
22	臨地実習G	3	豊島区池袋保健所	54	臨地実習G	3	あすか山訪問看護 ステーション
23	臨地実習G	3	豊島区長崎保健相談所	55	臨地実習G	3	訪問看護ステーション けせら
24	臨地実習G	3	千代田区 千代田保健所	56	臨地実習G	3	訪問看護ステーション みけ
25	臨地実習G	3	中央区中央区保健所	57	臨地実習G	3	おもて参道 訪問看護ステーション
26	臨地実習G	3	中央区月島 保健センター	58	臨地実習G	3	城北訪問看護 ステーション
27	臨地実習G	3	中野区中部すこやか 福祉センター	59	臨地実習G	3	東電さわやか訪問看護 ステーション中野
28	臨地実習G	3	中野区北部すこやか 福祉センター	60	臨地実習G	3	浅草医師会立 訪問看護ステーション
29	臨地実習G	3	中野区南部すこやか 福祉センター	61	臨地実習G	3	岩本町訪問看護 ステーション
30	臨地実習G	3	中野区鷺宮すこやか 福祉センター	62	臨地実習G	3	新みさと訪問看護 ステーション
31	臨地実習G	3	中央区いきいき桜川	63	臨地実習G	3	河北杉並訪問看護 ステーション
32	臨地実習G	3	中央区いきいき浜町	64	臨地実習G	3	すみれ訪問看護 ステーション
33	臨地実習G	3	中央区いきいき勝どき	65	臨地実習G	3	桜台訪問看護 ステーション
34	臨地実習G	3	中央区築地児童館	66	総合実習	3	聖路加国際病院
35	臨地実習G	3	中央区新川児童館	67	総合実習	2	永生会永生病院
36	臨地実習G	3	中央区堀瑠町児童館	68	総合実習	2	ひやしんす城北地域 活動支援センターⅢ型
37	臨地実習G	3	中央区浜町児童館	69	総合実習	2	多摩たんぼぼ 訪問看護ステーション
38	臨地実習G	3	中央区佃児童館	70	総合実習	2	多摩たんぼぼ訪問看護 ステーションむれ
39	臨地実習G	3	中央区月島児童館	71	総合実習	2	多摩たんぼぼ訪問看護 ステーションむさしの
40	臨地実習G	3	中央区勝どき児童館	72	総合実習	2	東京武蔵野病院
41	臨地実習G	3	医師会立中央区 訪問看護ステーション	73	総合実習	2	中央区医師会立訪問看護 ステーションあかし
42	臨地実習G	3	滝野川病院訪問看護 ステーション	74	総合実習	2	訪問看護ステーション パリアン

	授業科目	単位数	施設名		授業科目	単位数	施設名
75	総合実習	2	東京武蔵野病院	80	総合実習	2	ウパウパハウス 岡本助産院
76	総合実習	2	成育医療研究センター	81	総合実習	2	結核予防会結核研究所
77	総合実習	2	東邦大学医療センター 大森病院	82	総合実習	2	東芝ヒューマンアセットサー ビス(株)保健支援事業部
78	総合実習	2	齋藤助産院	83	総合実習	2	小鹿野町保健福祉 センター
79	総合実習	2	助産婦石村	84	総合実習	2	N T T 東日本首都圏 健康管理センター

	授業科目	単位数	施設名		授業科目	単位数	施設名
1	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	西早稲田中学校	7	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	千葉県茂原市立 萩原小学校
2	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	大妻中野女子中学・ 高等学校	8	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	大谷口小学校
3	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	東京学芸大学 附属世田谷小学校	9	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	鎌倉女子大学初等部
4	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	山形大学教育学部 附属小学校	10	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	南陽小学校
5	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	東京学芸大学 附属竹早小学校	11	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	成蹊中学・高等学校
6	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	宇都宮大学教育学部 附属小学校				

Class of 2012 (2012年3月卒業) 総合看護・看護研究Ⅱタイトル一覧

学籍 番号	氏名	領域	指導教員	タイトル
09B01	相原 令奈	老年	梶井 文子	介護保険施設の看護師による摂食困難のある認知症高齢者に対する食事援助の工夫に関する文献検討
09B02	栗飯原綾佳	教育	堀 成美	HIV・AIDS 看護の場に於いて専門の医療通訳がないことで生じる問題と看護師の困難感 ～現行の制度と比較し、必要となる新たな支援策を考える～
09B03	秋葉恵里子	基礎	大久保暢子	小学校低学年の子どもが訴える疲労の原因とその背景
09B04	秋葉友紀子	母性・ 助産学	蛭田 明子	周産期喪失後の次子妊娠における母親の不安への対処に関する文献検討
09B05	秋山 奈菜	母性・ 助産学	飯田真理子	母子分離状態にある母親の看護ニーズと看護介入の実際に関する文献検討 ～母親と医療者、双方の視点から～
09B06	阿部 仁美	母性・ 助産学	飯田真理子	思春期への性教育の現状に関する文献検討 ～助産師の介入の必要性～
09B07	荒川由里加	精神	木戸 芳史	仮設住宅入居者のメンタルヘルスに関する文献検討
09B08	安藤 瞳	母性・ 助産学	實崎 美奈	不妊症に関する看護学生の知識と意識
09B09	飯室 百代	老年	亀井 智子	高齢者ケア施設で働く介護職と看護職の連携・協働の認識に関する文献検討
09B11	石川 智美	国際	長松 康子	フィリピンのスラム街におけるティーンエイジャーの性についての意識調査
09B13	磯田 彩	学校 保健	岩辺 京子	保健室登校および別室登校における養護教諭の支援の在り方
09B14	井上 恵	教養	鶴若 麻理	経済連携協定(EPA)に基づく外国人看護師に求められる能力 ～高齢者へのインタビューを通して～
09B15	岩井 恵	母性・ 助産学	實崎 美奈	不妊治療後妊婦への妊娠初期におけるケアの様相 ～助産師・不妊症看護認定看護師へのインタビューを通して～
09B16	江畑 萌	学校 保健	三森 寧子	入院中の子どもの思い ～学童期の子どもに焦点を当てて～
09B17	遠藤ななみ	管理	倉岡有美子	“生き生き”と働く新卒看護師の体験に関する研究

学籍 番号	氏 名	領 域	指導教員	タ イ ト ル
09B18	大川 智子	学校 保健	鶴若 麻理	教員から見た児童のストレスとその支援
09B19	大城 友希	母性・ 遺伝	有森 直子	ダウン症候群児・者の健康手帳のニーズと普及に関する課題
09B20	太田 雄馬	教養	菊田 文夫	小学生の人命救助に関する意識・能力の開発：いのちの授業を通して
09B21	奥山ユリア	学校 保健	大久保暢子	小学生中高学年を対象とした家庭におけるストレスと生活習慣の関連性
09B22	押尾 麻希	老年	梶井 文子	回復期リハビリテーション病棟における認知機能障害を有する高齢者に対する退院支援 ～家族に着目したアセスメントの視点と支援の内容～
09B23	小田 薫	学校 保健	岩辺 京子	普通学級に在籍する発達障害児への支援で学校が求められるもの：学校内の組織と養護教諭の働きを中心に
09B24	片岡 香理	学校 保健	岩辺 京子	養護教諭に求められる子どもへの対応 ～子どもたちの成長・発達に効果的な対応や言葉かけを中心として～
09B25	川島 綾夏	学校 保健	伊東美奈子	養護教諭が保健日よりで伝えていること ～保健日よりの実態調査を通じて～
09B26	川端 涼子	学校 保健	岩辺 京子	子どもの出すサインにどう気づき、対応するか ～子どもとの関わりにおいて、養護教諭に求められる要素は何か～
09B27	川又 美波	教育	堀 成美	バングラディッシュにおける思春期女子学生への月経教育の現状と今後の課題
09B28	木村 春香	教育	堀 成美	住所不定者に対して健康相談を行う団体に関わるボランティアへの結核感染対策の在り方
09B29	後藤 千恵	成人 (慢性期)	飯岡由紀子	婦人科がん術後に外来受診を行っている女性のセクシュアリティに対する看護の実態と今後の課題
09B30	駒田茉莉子	母性・ 助産学	新福 洋子	初産婦の出産・育児に関する情報収集・活用の実態とそれに影響する因子～出産・育児のビジョンの視点から～
09B31	小宮山早紀	管理	倉岡有美子	専門看護師の仕事と結婚・出産・育児などのライフイベントの両立についての質的研究
09B32	齋藤野乃花	基礎	蜂ヶ崎令子	A 大学看護学部第4学年の病院実習における化粧に関する意識調査 ～学生は誰の評価を気にしてどのような化粧をしているのか～
09B33	佐々木浩子	基礎	大橋久美子	集中治療領域における、患者の安楽を目的としたタッチの実施状況
09B34	指旗 理奈	学校 保健	岩辺 京子	食物アレルギーの現状と学校・養護教諭に求められる課題
09B35	佐藤さやか	教育	堀 成美	OTC 医薬品の日米比較 ～セルフメディケーションに関する意識調査を通して～
09B36	島田 麻由	地域	小林 真朝	職場におけるメンタルヘルス不調の一次予防に対する取り組みの現状と課題～職場でのメンタルヘルス対策に関する文献検討から～
09B37	島津 頌子	精神	木戸 芳史	統合失調症患者の服薬アドヒアランス向上を目的として看護師が行う支援方法に関する文献検討
09B38	清水亜沙子	成人 (急性期)	林 直子 桜井 文乃	人工呼吸器を装着している患者とのコミュニケーションにおける看護師の体験
09B39	清水絵理子	学校 保健	三森 寧子	思春期を乗り越えるための支援を考える ～ソーシャルサポートに焦点を当てて～
09B40	菅谷 佳那	地域	小林 真朝	精神疾患を抱えたホームレスに対する受診支援の現状と課題 インタビューからの考察
09B41	鈴木 祥子	母性・ 遺伝	有森 直子	障がい者のきょうだいを受ける影響ときょうだい支援に関する研究 ～文献検討を通して～
09B42	鈴木 帆奈	成人 (急性期)	宇都宮明美	看護学生のBLS学習経験後における一次救命処置実施に対する認識 ～傷病者に近づくときに生じるためらいの要因と看護基礎教育における課題～
09B43	須田奈津美	母性・ 遺伝	有森 直子	先天異常に関する超音波診断についての現状とケアに関する文献検討
09B44	須藤紗緒里	基礎	菱沼 典子	軽度から中等度認知症高齢者における回想法の効果 ～認知機能低下進行抑制の効果に焦点を当てた文献検討～

学籍 番号	氏 名	領 域	指導教員	タ イ ト ル
09B45	春原野百合	精神	角田 秋	統合失調症の長期入院患者に対して病棟看護師が行う退院支援の現状と課題
09B46	瀬尾 沙織	精神	角田 秋	統合失調症患者家族における家族心理教育の教育形態別の効果の相違について ～単家族心理教育と複合家族心理教育の比較～
09B47	高木 慶子	老年	松谷美和子	認知症介護者の精神的負担 ～介護体験の「語り」から読み解く精神的負担の原因と強み～
09B48	高取 由美	母性・ 助産学	蛭田 明子	出産後すぐにNICUに入院となった子どもを亡くした父親がセルフヘルプグループに参加すること
09B49	高橋 奈弓	老年	佐居 由美	要介護高齢者の「思い」に関する文献的考察
09B50	高橋 裕美	地域	小野若菜子	在宅での看取りに向けた看護支援の現状と課題についての文献検討
09B51	瀧崎 琴乃	成人 (急性期)	池口 佳子	手術室入室から麻酔導入時における患者の精神的苦痛緩和に関する文献検討
09B52	西川 来実	成人 (慢性期)	高田 幸江	在宅療養をしている末期がん患者の家族に対する看護師のデスエデュケーション
09B53	野島 実来	成人 (慢性期)	飯岡由紀子	ホルモン療法を受ける乳がん患者の体験と看護支援の実態
09B54	早川 香織	母性・ 助産学	實崎 美奈	不妊治療後に妊娠・出産した女性の心理や特徴に関する文献検討 ～看護についての一考察～
09B55	久永 仁美	管理	中村 綾子	一般病棟における音環境を考える ～医療機器のアラーム音に着目して～
09B56	房野紗矢子	小児	小野 智美	入院病棟でダウン症候群を持つ子どもと関わる際に新人看護師が経験する困難とその解決方法
09B57	船木 真理	老年	千吉良綾子	高齢者が介護予防運動教室参加修了後も運動を継続するうえで重要な要因について
09B58	細川 舞子	母性・ 助産学	新福 洋子	産後育児期の性生活に関する夫婦間の認識の相違についての文献検討
09B59	細川 らや	管理	倉岡有美子	新人看護師がプリセプターと良好な関係を築く方法の検討 ～就職を控えた看護学生が最終学年での実習中にプリセプターと良い関係を築けたと認識した経験を通して～
09B60	松岡 瑛里	成人	池口 佳子	術前の患者における看護の役割と取り組みに関する文献的考察
09B61	松本めぐみ	老年	亀井 智子	特別養護老人ホームにおいて吸引と経管栄養を行う看護職員と介護職員の思いと連携の実態
09B62	宮川 智帆	管理/教育 (災害看護)	中村 綾子	聖路加看護大学における災害時の学生ボランティア活動の実態
09B63	向 真理	管理/ 教育	倉岡有美子	看護系大学における看護職の労働環境に関する教育の内容・方法の探究
09B65	両角 捺希	老年	千吉良綾子	認知症女性高齢者に化粧療法を行うことで得られる効果とその介入方法に関する文献検討
09B66	矢澤 寛子	老年	梶井 文子	胃瘻造設を選択しなかった患者とその家族への看護援助とその困難
09B67	山内 麻衣	地域	大森 純子	保健師が自殺予防対策に着手するにあたっての障壁
09B68	山口保菜未	成人 (急性期)	宇都宮明美	救急領域に従事する看護師のストレスとその対処方法についての文献検討
09B69	山田 貴子	地域	小野若菜子	農村地域で生活を続ける高齢者夫婦の思い
09B70	山田 羽純	成人 (急性期)	宇都宮明美	クリティカルケア領域において看護師が抱く倫理的ジレンマに関する文献検討
09B71	湯浅麻衣子	老年	千吉良綾子	認知症啓発活動が認知症高齢者の家族に与える影響について
09B72	横林 典子	地域	小野若菜子	脳血管障害者と家族が在宅療養を継続するための支援に関する文献検討

学籍番号	氏名	領域	指導教員	タイトル
09B73	米内 香織	母性・ 遺伝	有森 直子	遺伝看護教育の現状と課題について
09B74	和田真奈美	がん	林 直子	認知症を有するがん患者に対する緩和ケアの現状と課題
09B75	分目 早織	心理学	廣瀬 清人	昔話は子どもの心理発達にどのような影響を与えるのか
07B69	吉田侑香莉	管理	中村 綾子	臨地実習における指導者-学生間の相互作用に関する文献研究 ～指導者と学生を支える施策についての一考察～
08B31	白岩 憲子	地域	大森 純子	精神的な不調を抱えた人とその家族が支援を受けるまでに感じている困難
10B86	安達 麻衣	母性・ 助産学	森 明子	産褥早期の女性に対する子守唄伝承プログラムの試み
10B87	岩坂 典子	管理	堀 成美	途上国における日本企業のCSR活動と保健医療との相乗効果 ～バングラディシュの女性へのインタビューを通じて～
10B88	岩原 未沙	成人 (急性期)	宇都宮明美	救急患者領域において患者の予期せぬ死に直面した家族の悲嘆ケアの現状と課題
10B89	宇野智英子	地域	小林 真朝	小規模事業所のメンタルヘルスにおける産業看護職の支援のあり方について～産業看護職2名のインタビューを通して～
10B90	大久保宇啓	精神	角田 秋	統合失調症患者の認知機能障害に対する看護ケアの現状および新たな看護ケアの提案
10B91	太田麻希子	地域	小野若菜子	災害発生に伴う在宅療養の課題と支援に関する文献検討
10B92	甲斐 晶子	教養	菱田 治子	看護学生の「医療通訳」に関する認知度調査
10B93	明松 真喜	老年	梶井 文子	看護職と介護職の協働における看護職の役割に関する文献検討
10B94	唐澤美由紀	教養・ 情報	中山 和弘	家族性大腸腺腫症患者のピアサポートとしてのインターネットコミュニティの機能と可能性
10B95	川野 嘉子	母性・ 遺伝	有森 直子	ダウン症候群児のセクシュアリティ教育に関する親の認識 ～『豊かなセクシュアリティを育むために』講演参加者を対象に～
10B96	北西 恵	地域	大森 純子	児童虐待に関わる行政保健師と児童相談所職員の思いにある共通点と相違点からみえてくるもの ～連携強化の構築に向けて～
10B97	國分 綾香	精神	大橋 明子	がん看護におけるリエゾンナースの介入の実際とその成果 ～直接ケアとコンサルテーション、調整に焦点をあてて～
10B98	小林麻由子	教養	鶴若 麻理	看護大学生が臨床実習で遭遇した倫理的問題を教員に相談しない要因
10B99	近藤 優子	地域	大森 純子	行政機関における保健師が行う育児不安を抱える母親への心のケアの実践知～保健師へのインタビューを通して～
10B100	榎藤 尚子	母性・ 遺伝	有森 直子	学童期ダウン症候群児への音楽を用いた療育プログラムの実施 ～親の会と看護学生の協働を通して～
10B101	佐々木美和	成人 (慢性期)	川端 愛	外来化学療法を受ける再発・転移のあるがん患者の家族に対して外来看護師が行う援助の検討
10B102	武田 晶子	地域	麻原きよみ	労働者の抑うつと生活習慣の関連についての文献検討
10B103	谷口絵里奈	教養・ 情報	中山 和弘	ヘルスコミュニケーションを促すための医療者及び患者・市民向け Web コンテンツ作成
10B104	藤井亜紀子	教養・ 情報	中山 和弘	受診前の人々が糖尿病に関する情報源として遭遇する検索上位サイトの信頼性と課題
10B105	松井香保里	国際	長松 康子	フィリピンスラム地区の妊産婦の食事内容及び栄養に対する意識について
07B81	竹内 博美	教養・ 情報	中山 和弘	医療の現場に『ナラティブ』という視点を生かす意義 ～看護師・患者間のコミュニケーションギャップの実際を通して～
09B88	高橋 里沙	学校 保健	三森 寧子	精神疾患を持つ母親と生活する子どもへの支援方法の検討 ～都内公立中学校に勤める養護教諭の関わりから～
09B91	アンプルズ麻子	管理	中村 綾子	子育てをしながら新人看護職として就職した女性の体験

【学部選択科目履修状況】

(新カリキュラム)

		授業科目	学年	人数
教養科目	人間と文化	キリスト教倫理	1年	2
		音楽	1・2年	44
		美術	1・2年	20
		文学	1・2年	37
		哲学	1年	13
		倫理学	1・2年	15
		宗教学	1・2年	9
	人間と社会	歴史学	1・2年	2
		法学（日本国憲法）	1年	93
		教育原理	1年	60
		教育方法の研究	1年	25
		社会学	1年	50
		心理学	1年	33
		教育制度論	2年	14
		カウンセリング概論	2年	22
		教職概論	2年	15
	女性学	2年	12	
	人間と言語	国語表現法	2年	4
		選択英語Ⅰ	1・2年	0
		選択英語Ⅱ	2年	5

		授業科目	学年	人数
教養科目	人間と言語	海外語学演習	1・2年	22
		ドイツ語Ⅰ	1年	41
		ドイツ語Ⅱ	2年	1
		中国語	1・2年	14
	人間と情報	基礎統計学	1年	22
		生物学	1年	3
	人間と環境	物理学	1年	0
		化学	1年	開講せず
		体育Ⅰ	1年	75
	総合科目	体育Ⅱ	1・2年	69
		総合科目Ⅱ（健康科学）	1年	2
		総合科目Ⅲ （ボランティア活動学習）	1年	8
		総合科目Ⅳ（自校学習）	1年	16
		総合科目Ⅴ （国際交流演習）	1・2年	4
専門科目	看護実践	国際看護学	1年	91

(旧カリキュラム)

		授業科目	学年	人数
基礎科目	人間と文化	倫理学	3年	0
		宗教学	3年	0
	人間と社会	法学（日本国憲法）	4年	8
		教育課程論	4年	14
		道徳及び特別活動論	4年	14
		生徒指導論	4年	13
	人間と言語	文献講読B	3年	13
		英語表現法ⅢーW	3年	0
		異文化コミュニケーション	3年	36
	人間と情報	統計学演習	4年	7
	体育	体育Ⅰ	3年	1
		体育Ⅱ	4年	10
	総合科目	総合科目Ⅳ （国際交流演習）	3・4年	2
	看護の基本	看護提供システムⅡ	4年	17
		看護技術論	4年	0
	人間の作用の保持・環境の相互強化	生涯発達看護論Ⅲ	4年	開講せず
		家族発達看護論Ⅱ	4年	12
		地域看護論Ⅲ	4年	12
		学校保健	3年	34
		看護概説	4年	13

		授業科目	学年	人数
専門科目	人間の相互作用の修正と環境の修正	慢性期看護論Ⅲ	4年	2
		リハビリテーション看護論Ⅱ	4年	8
	人間の作用の回復・環境の相互保護	急性期看護論Ⅲ	4年	35
	看護学統合	看護研究Ⅱ	4年	90
		総合看護	4年	7
		看護ゼミナール（権利が脅かされやすい状況にある子どもと家族の看護）	4年	4
		看護ゼミナール（遺伝看護）	4年	9
		看護ゼミナール（看護教育）	4年	6
		看護ゼミナール（国際看護）	4年	5
		看護ゼミナール（老年看護実践）	4年	8
		看護ゼミナール（学校における救急処置）	4年	13
		看護ゼミナール（自校史演習）	4年	0
		看護ゼミナール（感染症看護）	4年	5
		看護ゼミナール（がん看護）	4年	4
		看護ゼミナール（緩和ケア）	4年	2
		看護ゼミナール（チームチャレンジ）	4年	13
		養護実習Ⅰ	4年	13
	養護実習Ⅱ	4年	13	

【立教大学全学共通カリキュラム】履修状況

授業科目	履修者数
平和と人権	1
朝鮮語圏の文化1	1

【立教大学科目履修状況】

	前期	後期
開講科目数	100	100
履修科目数	2	0
履修者数	2	0
単位習得率	100%	

(1)入試委員会

1. 役割・職務

- 1) 聖路加看護大学入試委員会規程により看護学部入学者選抜の実施に関する事項を審議し公正な方法で実施運営を図る。
- 2) 審議事項は、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）、入学者選抜方法の検討と選抜試験の実施、入学選抜に関する情報提供および情報開示、各委員（出題、校正、面接、採点）の人選、入学者選抜の統計、その他入学者選抜に関すること。重要事項は教授会の議を経て決定する。

2. 活動内容

- 1) 委員会は常設で定例会は原則毎月1回開催した。
- 2) マークシート方式導入に関する情報収集および検討の結果、読み取り・価格で今回は見合わせた。
- 3) 入試ミス防止のための第3者による入試問題チェックは2013年度学士編入学「生物」を従来の事後から事前へと時期を変更し、2013年度一般入試は従来の「理科（生物Ⅰ、化学Ⅰ）」の2科目から「英語」「国語」を追加した4科目で実施した。
- 4) 一般入試出願者増を図るため願書の書式を簡素化、2次試験内に調書記入を設けた。
- 5) 一般入試マニュアルの見直しを行い、入試ミス発見時の周知方法、事務局業務内容、災害時の対応も含めた改訂版を作成した。
- 6) 2013年度一般入試の出願速報を受付開始5日目、10日目、最終確定の計3回公表。
- 7) 2013年度推薦・帰国生入学試験受験者を対象に、本学を知った時期、受験勉強開始時期、本学来校回数等のアンケート調査を実施し集計結果を広報委員会と共有した。
- 8) 指定校推薦入試検討のため、首都圏の聖公会高校（立教池袋高、立教新座高、香蘭女学校、立教女学院）4校にヒアリングを行い、2014年度より全国の聖公会高等学校10校を対象（男子校を含む）とした指定校推薦入試を開始することになった。
- 9) 2013年度一般入試および2013年度学士編入学入試において情報開示を実施した。
- 10) 平成21年告示高等学校学習指導要領に対応した平成28年度一般入試（理科は平成27年度から）の出題教科・科目等について検討を続けた。

3. 課題

- 1) 新学習指導要領による一般入学試験の出題教科・科目の決定と公表
- 2) 一般入学1次試験会場確保に伴う費用削減
- 3) 他大学（看護系）との入試日程調整による受験生の確保
- 4) 広報室・広報委員会との連携
- 5) 募集要項へ記載可能な時期の奨学金制度の決定
- 6) 募集要項の取得資格に関する標記の確認

(2)カリキュラム運用委員会

1. 役割・職務（カリキュラム運用委員会規程）

本学の教育理念のもと、現行の看護学部教育課程の運用により編成に係る事項について所要の審議を行い、必要により教授会に上程する。具体的には、以下のことを審議する。

- 1) 教育課程の編成に関すること
- 2) 授業科目および実習の実施に関すること
- 3) 時間割の編成に関すること
- 4) 前各号に係る評価に関すること
- 5) 単位の認定に関すること
- 6) 非常勤講師、臨時助教の採用に関すること
- 7) 学生の履修状況に関すること
- 8) その他教育課程に関すること

2. 活動内容

定例会議11回および臨時2回の委員会を開催し、例年の上記審議事項の他に、以下について審議を行った。

- 1) 旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行期にあたり、旧カリキュラムを履修している学生の再履修となった科目についての履修の方法を検討した。
- 2) 「忌引届」の忌引期間を延長して解釈し使用した学生がいたことに対し、防止策や対応について話し合い、便覧記載や忌引届の用紙を変更した。
- 3) 現在利用している体育館が2年後に閉鎖となることが決まっており、保健師国家試験受験資格選択者や養護教諭1種免許に必修となる「体育」の履修方法について検討が行われた。
- 4) 養護教諭1種免許状取得希望者が現3年生は29名となり、その指導体制や対応について検討した。それに伴い、2013年度入学生より、養護教諭1種免許に係る実習科目の履修者を上限20名とする定員を設

けた。

5) 「栄養学」担当者から1単位(15時間)を2単位(30時間)に変更する提案があり、検討が行われた。

6) 保健師国家試験受験資格取得に関する科目の履修について、上限30名とし、上限を上回った場合は選抜を行うことの周知徹底がされていなかったため、2度の臨時の会議を開催し、対応を検討した。

その結果、2011年度および2012年度入学生に限り、保健師国家試験受験資格取得希望者は全員が公衆衛生看護学実習を履修出来ることとした。

そのため、履修希望予定者80名を見越し、次年度5月頃を目途に、その実習場の開拓と指導体制について検討を行っていくこととなった。

また、2013年度入学生からは、上限を30名とし、その選抜方法について検討を行い、選抜時点での全科目のGPAで決定することが決まった。

7) 科目ナンバリングについて提案があり、導入することが承認され、教授会に上程された。

8) GPAの導入について提案があり、アドバイザー制とともに検討され、教授会に上程された。

3. 課題

1) 保健師国家試験受験資格選択者の具体的な選抜方法について検討されたが、2011年度、2012年度入学生については希望者全員が履修できることとしたため、その実習がスムーズに実施できるよう対応を検討する必要がある。

2) 科目等履修生の養護実習1単位の開講について検討課題であったが、未だ検討されていない。科目等履修生の開講の在り方とともに引き続き検討が必要である。

3) 体育の開講について、早急に開講可能な方策を考える必要がある。

4) 新カリキュラムへの移行期であるため、引き続き円滑な運用が課題である。

①実習単位認定者会議

1. 役割・職務

各実習レベルの実習単位認定者による学生の指導を円滑にすすめるための連絡会議

2. 活動内容

1) 実習の積み重ね(レベルⅠ～Ⅲの実習目標と自己評価)について

新カリキュラムが適応された実習レベルⅠでは、事前に検討した実習目標や自己評価法に矛盾や問題が起きないか注意して実習を展開したが、課題は生じなかった。実習レベルⅡでは、実習レベル目標Ⅱ達成度自己評価用紙を活用して、個々の課題を次の領域実習やレベルⅢの実習に活かせるように継続して支援した。

2) 実習に対する学生個々のニーズへの支援について

実習前にアンケートを実施し、学生各自により示された実習に向けての課題や心配事を単位認定者のみが把握し、事前に学生と話し合ったり、健康管理室(木暮聖子保健師)と連携して対応策を考慮する等、各領域で実習環境を整えて支援した。効果的な支援法が次の実習領域や次のレベル実習に継続されるように会議で実習状況や課題を共有した。聴覚や身体内部に障がいがある学生に対する実習レベルⅠでの支援体制や実習状況について意見交換や情報共有を行った。

3) 実習でのハラスメントについて

担当者によって作成された資料をもとに学生に対して、全体の实習オリエンテーションにおいて説明し、さらに領域毎のオリエンテーションにおいても周知した。事態発生時には臨時会議を開催し、学生便覧(事故発生時の報告ルート)を基に対応する旨を再確認すると同時に、実習中や実習後に細かな観察や状況の把握に実習担当教員および実習単位認定者が務めることで早期の発見や対応を目指し、学生に不利益が起らないように支援すること等を話し合った。

4) 個人情報の取り扱いについて

近年は実習記録に電子記録媒体を使用する傾向が増加していることから、個人情報の管理に対する学生各自の徹底と、流出の際の厳格な対応について全体の实習オリエンテーションと領域毎のオリエンテーションで周知し、対象者の権利を厳守すると同時に、専門職を目指す学生の意識を向上させるように支援した。

5) 実習中の安全対策について

インシデントやヒヤリハットの事例を会議で共有し、対策の評価や予防策について意見交換を行っ

た。

3. 課題

- 1) 新カリキュラムによる実習レベルの目標や評価方法の妥当性を継続して検討する。
- 2) 実習におけるハラスメントへの予防策と早期発見に対する具体的な方法を検討する。
- 3) 個人情報の厳守に対する専門職としての意識を学生の中に育てていく必要がある。
- 4) 実習に関する学生個々のニーズを学生自身が対処できるよう、相談しやすい環境や支援法を検討していく。
- 5) 聴覚や身体内部に障がいがある学生の長期的実習における支援体制を整備する。

②臨地実習Ⅱ担当者会議

1. 役割・職務

臨地実習Ⅱの実習運営のための検討および運営

2. 活動内容

4月と6月に構成員で会議を開催し、臨地実習に向けた準備と指導體制について検討した。

1) 実習オリエンテーションの目的と内容の検討

臨地実習に向けて2回（7、9月）のオリエンテーション（以降オリとする）を行った。

7月オリは、教務と健康管理からのオリに加えて、各領域5分程度の概要説明と、その他の留意事項の説明とした。9月オリは、全体オリ、Smile for、感染管理、ハラスメントへの対応、健康管理、災害時の対応に加えて、各領域10～20分の説明を行った。

- (1) ハラスメントへの対応に関するオリ：暴力・ハラスメントの定義、それらが生じる要因、予防・回避する方法、即座の対処について配布資料を用いて説明した。
- (2) 災害時の対応に関するオリ：「災害時の学生行動マニュアル実習版」のフローチャートを使用して、災害の定義、緊急連絡先、安否確認システムへの状況報告のタイミングなどを説明した。

(3) 電子カルテシステム Smile for のオリ：電子カルテの活用方法と情報管理のあり方を含めてオリを行った。

2) 技術チェック

実習で静脈採血は滅多に実施されないため、比較的施行機会が多い血糖値測定採血を行い、全身清拭とリネン交換は時間内で終了するように短縮化した。

3) 新カリキュラムへ準備

2013年度は新カリキュラムとなり日程調整ができないため、全員での技術チェックは行わずに各領域で行うこととした。また全体としてはオリのみ7月に行うことに決定した。

3. 課題

- 1) オリ内容と進め方を検討する必要がある。

(3)実習室委員会

1. 役割・職務

聖路加看護大学の学生が必要な看護技術を修得するために実習室の環境を整える。

- 1) 地下および6階実習室と教材が、学生の学習環境として整うように管理・運営する。
- 2) 実習室自己学習支援員を配置し、学生の自己学習支援を行えるように依頼・調整する。

2. 活動内容（表1・2参照）

3. 課題

- 1) 新カリキュラム移行2年目となり、各科目の実習室利用状況がこれまでと異なる可能性がある。各種研究会等にも多く利用されている状況において、学生の自己学習環境の確保、整備が課題である。
- 2) 今年度は実習室支援員が継続に確保でき、学生に有効な学習環境が提供できた。2013年度も、週2回の支援員の継続確保は課題である。また、今年度は、支援員の活用をアピールし利用者の増加がみられた。学生の空き時間、実習室スケジュールに配慮した、勤務日時の調整が必要となると考える。

表1 2012年度実習室委員会活動内容

活動項目	活動内容
実習室支援員の確保・支援業務依頼・日程調整・勤務管理・学内周知	原則週2回(火・木)、各1名の支援員が在室できるように調整した。勤務時間は学生の空き時間を考慮し、午前中からの勤務日も設けた。掲示とメールで学内に周知した。
地下、6階の実習室インベントリー	3月13日(水)10:00~17:00、教員(10:00-12:00)学生アルバイト(10:00-15:00)、実習室委員(9:30-17:00)計51名で実施した。不要物品の整理、修理依頼・アーカイブへの移行もあわせて行った。
医療機器・教材の点検	①臨床工学士による医療機器の点検を依頼(7月、3月)、②蘇生・シミュレーター人形の点検を業者に依頼(2月)、③機器の充電、通電・作動点検を毎月確認(自己学習支援員による)。
物品の修理・破損物の処理	年間を通じて実習室物品・教材の修理や破損物処理の窓口となった。用紙を改善し修理・破損物報告方法の簡便化をはかった。
物品の貸し出し・実習室使用の調整	学内教員の教材・物品貸し出し表により貸し出しを把握。学生への貸出票(教務課保管)による管理。白楊祭や病院の研修等の貸出しの相談・調整・準備・返却確認を行った。
業者による清掃依頼・インベントリー時の棚・物品の清掃	業者への清掃依頼(8月、2月):倉庫内ワックスがけ(2月)、ベット、床頭台、棚扉や枠等の清掃。インベントリー時(3月)は全棚内・教材物品類の清掃
全ベッドのリネンの洗濯・交換	8月、3月(2回)実施
実習室必要物品の購入・予算計上	各領域からの要望を聴取し、必要性の検討を行って予算を計上した。今年度実習室購入備品は、沐浴人形・血圧計・自己学習関連消耗品品等である。ベッドマットレスの老朽化のため、インベントリー時に交換を行った。
実習室環境整備	①ベット整備、②日々の環境整備、③設備修繕上の連絡調整 ④環境整備についての周知 ⑤倉庫の整備 を行った。
実習室使用に関するアナウンス	①自己学習室マップの掲示とアナウンス、②実習室使用上のマナーの呼びかけ(掲示等)、③実習室に関連する情報のアナウンス
災害対策環境の整備	震災時に使用が予測される物品のマップ、懐中電灯の確認を行った。

表2 2012年度実習室自己学習支援員による自己学習支援件数

(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	0	37	2	2	0	0	218	105	42	72	0	0	478
2年生	0	174	319	275	0	5	133	156	66	16	114	0	1,258
3年生	0	0	0	0	0	75	0	8	6	2	5	0	96
4年生	0	4	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37
大学院	0	0	7	2	0	0	0	11	41	11	0	0	72
計	0	215	361	279	0	80	351	280	155	101	119	0	1,941

(4)体育デー委員会

1. 役割・職務

体育デーは、1. 他の学年の人たちや先生方との親睦を深める、2. 身体を動かし、気持ちの良い汗を流す、3. 楽しむ、という目的で行われる(2012年度体育デーのしおりより)。本委員会は学生委員が主体となって体育デーの企画・運営を行ない、教職員顧問は学生委員のサポートを中心に行なう。

2. 活動内容

4月に新入生委員の勧誘を行い、学生委員内で前年度の引き継ぎが行われた。体育デー委員会は体育デーの企画・準備のため週1-2回程度、昼休みに開催された。主な準備内容は、役割分担・種目決め・ルール決め・必要物品の準備に加え、各チームの参加者出場種目の決定・体育デーのしおりの作成と参加者への配布(学生全員、参加教職員)などであった。教職員は委員会に参加し、学生の自主的な活動にむけたアドバイスや支援、教職員の出場種目の調整等を行った。昨年度の課題であったワ

ンドリバスケットについては廃止とし、昼休憩時間に Dance Performance Battle と題した企画を設け4団体の発表を行った。なお、聖路加看護大学同窓会からの協賛金を運営費の一部とし、その旨をパンフレットに掲載した。

2012年度の体育デーは、6月7日(木)中央区総合体育館にて開催された。競技種目は、バレーボール・ドッジボール・台風の目・玉入れ・障害物競走・綱引き・チーム対抗リレーであった。当日は、サポーターとして募集した学生スタッフとともに各種目の審判や司会進行などを実施した。またマナー委員会による競技観戦におけるマナーの啓発活動も行われた。競技の結果は、1位：4年生、2位：2年生、3位：3年生、4位：1年生、であった。

3. 課題

- 1) 競技中に怪我をした学生が2名おり、競技内容やルールについて次年度の課題とした。
- 2) チーム対抗リレーに参加を希望する教員が少なく、次年度の検討課題とした。

(5)多様な学生の学びに関するプロジェクト

1. 役割・職務

- 1) 多様な学生の学生生活および修学・就職支援に関すること
- 2) 支援を行うための財源の確保と人的・物的資源の調達

2. 活動内容

- 1) 聴覚障害学生の情報保障に関するニーズの把握と支援方法の検討、パソコンテイク、ノートテイク、手話通訳、DVD/ビデオ教材文字起こしの手配並びに支援に関わる人件費の処理
- 2) 財源の確保および必要物品の購入
- 3) 下級生および新任教員を対象とした該当学生自己紹介企画(災害避難誘導手話含む)
- 4) FM マイクの性能確認と関係者への周知
- 5) 定期試験における座席位置の配慮と試験監督アナウンス原稿作成
- 6) 科目担当教員による履修状況等の情報交換
- 7) 大学行事(白楊祭、クリスマスの集い、創立講演会等)参加に伴う情報保障に関するサポート
- 8) 「大学における障害学生の受け入れ状況に関する調

査2013」(全国障害学生支援センター)への回答

3. 課題

- 1) 私学事業団補助金の削減に伴い本学での予算化が必須となるがその財源が学費収入を超過すること
- 2) 各科目によって講義形態、資料作成方法が異なるため、個々に支援内容の検討が必要であること
- 3) 講堂、校舎外など広い場所ではさらに情報伝達の困難さが生じること
- 4) 3年次「臨地実習」の支援は個々の障害に応じた方法が必要となるが未知であり、人材資源も乏しいこと。

(6)看護教育会議

1. 役割・職務

- 1) 主たる実習病院である聖路加国際病院看護部と連携をはかり、本学の看護教育の質の向上をはかることを目的とする。個別の実習科目については、看護部、教育研修部ならびに当該病棟との事前打ち合わせ、事後の報告・反省会を行うので、看護教育会議では実習全体の課題の共有や、看護教育界、実践現場の新しい情報を相互に提供しあう。

2. 活動内容

1) 会議

上記の目的で会議を4月、7月、2月の3回開催した。参加人数は4月は病院28名、大学38名、7月は病院28名、大学33名、2月は病院27名、大学40名であった。

2) 内容

- 4月：病院からは看護部の体制、新人オリエンテーション、採用計画、病院の新規事業計画、周麻酔看護師等。大学からはメンバー紹介、学生数、国家試験結果、カリキュラムの年間計画(実習計画を含む)、多様な学生の学びについて、チームビルディング力育成プログラム、研究センター事業、交換留学生等。学生の就職先の選択の仕方について意見交換をした。
- 7月：双方からの報告のほか、特定能力認証制度のその後の動向と看護系大学の動向をレポートした。大学の広報活動の病院との連携、実習の状況と就職について、意見交換があり、良い学びができるよう実習のあり方を継続して検討していくことと

なった。

2月：双方の報告の後、実習のあり方について、自由な意見交換を行い、新たな方法が複数提案された。

3. 課題

- 1) 双方のスタッフが集まる貴重な機会であり、活性化が課題であったが、本年度実習に関する討議を重ね、新しいアイデアがでてきたことは、評価できる。次年度も枠を超えた、新しい案を詰めていきたい。

(7)教育会議

1. 役割

本学専任の教職員の他に、非常勤講師、臨床教員が一同に会し、その年度の本学の活動内容および次年度の活動内容を知ってもらうこと、また、意見交換を行い本学の教育の質の向上を目指す。

2. 活動内容

毎年年度末に1回開催している。2012年度は3月22日（金）16：00～17：42に開催し、理事長、名誉理事長、専任教職員70名、客員教授（3名）、兼任教授（1名）、非常勤講師（7名）、臨床教員（2名）、新任教職員（9名）、計94名の出席があり、以下の内容で進められた。

- 1) 理事長挨拶
- 2) 学長挨拶
- 3) 名誉理事長挨拶
- 4) 大学の状況報告
- 5) 教育に関する意見交換

意見交換では、英語での授業をもっと取り入れるべきであるとの意見があり、学生の能力の問題、教える側の問題が挙げられた。日本の看護のレベルを上げるためにも、大学の方針を明確にしていく必要があるとの意見があった。一方、日本語のコミュニケーションが出来ていないことの問題点が挙げられ、TBLを取り入れた授業の紹介があった。

また、生物学担当の非常勤講師から、履修者が2012年度は2名であったことの報告があり、遺伝学や、放射線被害について、どのような科目で学習しているかの質問があり、本学での遺伝教育の紹介があった。

3. 課題

非常勤講師や臨床教員に本学の活動を知ってもらうよい機会である。外部講師の出席者が少ないことは変わっていない。今回は、報告事項についてパワーポイントが加わり、意見交換も活発に行われたが、短い時間の中での意見交換であるので、事前に審議したい事のアンケートを取る等の工夫を行い、なお一層の積極的な意見交換がなされることが課題である。

(8)養護教諭ネットワーク会議

1. 役割

- 1) 養護教諭をしている卒業生・修了生に、本学の保健師教育と養護教諭養成課程について説明し、実習が効果的に行われるよう協力を依頼する。
- 2) 入試広報の効果的なあり方について意見を伺う。

2. 活動内容

開催日時：2012年7月7日（土）15:00～16:30

場 所：本学506教室

出席者：卒業生・修了生 6名

教職員 7名 計13名

議 題：

- 1) 本学のカリキュラムと保健師教育について（教務部長）
- 2) 本学の養護教諭養成課程（教育実習を含む）について（地域看護学・養護教諭養成課程）
- 3) 2013年度入試日程について（広報委員長）
- 4) 意見交換

3. 課題

学校によって、養護教諭の働き方や求められる役割、実習指導体制が違うことがわかったのは興味深いことであった。これからも学生が充実した環境で実習を受けられるよう、受入先の担当者との連携を強めていきたい。また、入試についていただいたご意見を、今後の入試広報にいかしていく。

2 看護学研究科

大学院収容定員に対する在籍者数（2012.4 現在）

修士課程

学 年	収容定員	現 員 数
1 年	㊦ : 15	21 (5)
	㊧ : 15	15 (0)
2 年	㊦ : 15	23 (5)
	㊧ : 15	20 (1)
3 年		7 (7)
計	60	86 (143.3%)

博士後期課程

学 年	収容定員	現 員 数
1 年	10	12
2 年	10	13
3 年	10	29 (内留年者 19)
計	30	54 (180.8%)

() : 社会人うち数

大学院入学状況（2012 年度入学者）

		入学志願者						計
		当該大学 出身者	他大学出身者			外国の 学校卒	その他	
			国立	公立	私立			
修士 課程	看護学専攻	6	4	2	14	0	2	28
	ウィメンズ	6	5	2	13	0	1	27
博士後期課程		8	3	1	0	1	0	13

		入 学 者						計
		当該大学 出身者	他大学出身者			外国の 学校卒	その他	
			国立	公立	私立			
修士 課程	看護学専攻	5	3	1	10	0	1	20
	ウィメンズ	6	2	1	5	0	1	15
博士後期課程		7	3	1	0	1	0	12

看護基礎教育機関別入学状況（2012 年度入学者）

		看護教育機関	大 学	短期大学	専門学校	なし	計
志願 者数	修士 課程	看護学専攻	16	3	7	2	28
		ウィメンズ	24	0	3	0	27
	博士後期課程			9	1	3	0
入学 者数	修士 課程	看護学専攻	13	3	3	1	20
		ウィメンズ	14	0	1	0	15
	博士後期課程			9	0	3	0

修士課程大学（学部）卒業年別入学状況（2012年度入学者）

大学卒業年度		2012年3月 大 学 卒	2011年3月 大 学 卒	2010年3月 以前大学卒	その他* (外国卒等)	計	左記のうち 有 職 者 数
志願 者数	看護学専攻	1	1	24	2	28	28
	ウィメンズ	18	4	4	1	27	9
入学 者数	看護学専攻	1	1	17	1	20	20
	ウィメンズ	11	0	3	1	15	5

*その他に大学評価・学位授与機構を含む

研究生等の学生数（2012年度）

研 究 生		計
学部卒以上	左記以外	
0	1※	1

※修士課程修了者

大学院修了者数

修 士 課 程		博士後期課程 (学位授与)	博士後期課程 (単位取得後退学者)	論文博士 (学位授与)
看護学専攻	21 うち社会人6	11 (2)	5	1
ウィメンズヘルス・ 助産学専攻	18			

() 内は学位授与者のうち単位取得後退学後再入学し学位を受けたもの

大学院科目等履修者受け入れ状況

授業科目	単位数	履修者数	単位取得者数
看護教育学特論Ⅰ	2	1	1
急性期看護学特論Ⅱ	2	2	2
急性期看護学特論Ⅲ	1	1	1
急性期看護学演習Ⅲ	1	1	1

研究生受け入れ状況

指導教授	研究生数
田代順子教授	1

大学院受入状況

	修士課程			博士後期課程	博士後期課程 2次募集	研究生
	学内推薦	I期	看護学専攻II期			
試験日	2012年7月25日	2012年9月12日	2013年2月27日	2012年10月16日	2013年3月4日	
願書 受付期間	2012年7月1日 ～7月7日	2012年8月22日 ～8月29日	2013年2月 5日 ～2月12日	2012年9月25日 ～10月2日	2013年2月12日 ～2月19日	2013年1月10日 ～2月 9日
募集人員	若干名	㊦： 12 ㊧： 15	㊦： 3名	10	若干名	若干名
志願者数	㊦： 0 ㊧： 4	㊦： 19 うち社会人 8 ㊧： 23 うち社会人 2	㊦： 9 うち社会人 6	13 うち社会人 8	6 うち社会人 1	3 (継続1名を 含む)
受験者数	㊦： 0 ㊧： 4	㊦： 19 うち社会人 8 ㊧： 23 うち社会人 2	㊦： 9 うち社会人 6	13 うち社会人 8	6 うち社会人 1	—
合格者数	㊦： 0 ㊧： 4	㊦： 12 うち社会人 3 ㊧： 14 うち社会人 1	㊦： 7 うち社会人 4	8 うち社会人 6	5 うち社会人 1	—
入学者数	㊦： 0 ㊧： 4	㊦： 12 うち社会人 3 ㊧： 14 うち社会人 1	㊦： 7 うち社会人 4	8 うち社会人6名	5 うち社会人 1	3 (継続1名を 含む)

㊦：看護学専攻 ㊧：ウィメンズヘルス・助産学専攻

(1)がんプロフェッショナル養成プラン

1. 役割・職務

本学は平成19年度より文部科学省が助成する「がんプロフェッショナル養成プラン」において、北里大学を事業推進代表校とし全9大学から成る【南関東圏における先端的がん専門家の育成】に参画してきた。本年度はさらに1大学増え、全10大学15研究科が連携し「高度がん医療開発を先導する専門家の養成」として新たに第2期がんプロを開始した（主幹校：慶應義塾大学）。このプロジェクトにおいて、本学は前期に継続して看護系大学院を設置する北里大学、慶應義塾大学とともにがん看護専門職の育成を推進するプログラムに参画すると共に、全研究科横断的に結成されたトランスレーショナルリサーチ

(TR) 推進委員会、QOL 委員会、緩和ケア委員会のメンバーとして、大学院教育ならびに現任教職、継続教育、さらには研究活動において協働、教育の相互交流を図った。

2. 活動内容

①大学院修士課程において、がん看護上級臨床実践コースとしてがん患者に特化したフィジカルアセスメントや、がん患者の生殖医療、がん特有の症状マネジメントに関する講義と演習を踏まえ、がん治療専門施設、在宅緩和ケアを実施する訪問看護ステーションにおける実習を実施した。各科目においてはがん治療専門医やがん看護専門看護師等に講師・指導を依頼し、複雑化するがん治療や多様な療法の場で

生かす、系統的な専門的知識、技術、態度の育成を図った。

- ②がん化学療法看護認定看護師教育課程として6月～2月に教育コース(615時間)を実施し、27名が受講、フィジカルアセスメント演習や、中心静脈挿管シミュレーターを用いた薬剤投与管理演習を取り入れ、26名がコースを修了した。今年度がん化学療法認定看護師資格取得者は29名であった(2011年度修了生24名、2010年度以前の修了生5名含)。
- ③がん看護専門看護師コース修了後認定審査を受ける candidates、がん看護専門看護師を対象にしたがん看護事例検討会を開催した。またがん看護専門看護師が主催するコンサルテーション事業を開催した。がん化学療法看護認定看護師を対象にしたスキルアップセミナーを開催し84名が参加した。2012年度 CNS 資格取得者は2名である。
- ④11月に米国 MayoClinic のナースを講師に迎えがん看護・急性期看護の現状に関する研修会を開催し、情報や意見交換を行った。また、3月には、米国 National Institutes of Health、The George Washington University School of Nursing を訪問し、がん上級実践看護師教育、緩和ケアやがん治療における、症状マネジメントや看護ケアに関する視察を行った。

3. 課題

今年度より第2期がんプロがスタートし、これまで以上にプロジェクトチーム間の連携が問われている。本学では特に TR 委員会での役割が十分に果たせて折らず、将来的には国際病院の医療スタッフとも協働してがんプロに取り組める体制作りをすることが課題である。また、コース受講生の継続的獲得ならびに増加も今後の課題である。

(2)組織的な若手研究者等海外派遣プログラム

「市民参画型ケアを推進する看護学若手研究者の育成」に関する委員会

1. 役割・職務

2009年度末に日本学術振興会の組織的な若手研究者等海外派遣プログラム(3年)に採択された。本プログラムの効果的に運用し、プログラムの目的を達成することが本委員会の任務である。

- 1) 派遣課題の募集と採用の決定
- 2) 派遣結果の評価
- 3) 本プログラムの公開
- 4) 日本学術振興会へ報告書提出

2. 活動内容

- 1) 派遣課題の募集を2回行った。応募課題に対し、選定基準に従い採否と、派遣費用の決定を行った。
- 2) 派遣結果の評価として、学会発表や論文作成の成果を追跡した。
- 3) ホームページで、本プログラムについて紹介し、派遣課題を公表した。
- 4) 2013年2月に本プログラムが終了したことから、派遣内容と決算の報告書を提出した。

3. 課題

本プログラムにより、11名の助教が2ヶ月の海外研修を行うことができ、各自の研究の視野の広がりがもたらされた。また本プログラムの支援を得て、博士論文ならびに修士論文が提出され非常に効果があったと評価している。本プログラムの終了により、本学としては教員・博士研究員・院生の海外派遣の継続が、今後の大きな課題である。

4. 資料・データ

表1 応募件数・採用件数

	2012年度 (第1回)	2012年度 (第2回)
応募件数	12※	1
採択件数	11	1

※指導教員同行申請1件を含む

表2 派遣課題一覧

氏名	派遣期間	派遣先		研究テーマ	研究成果
角田 秋 助教	2012/4/2～ 2012/6/1	英国	ウィルトシャー州国民保健サービス、ウェストイングランド大学、ボーンマス大学他	英国の地域精神保健における他職種チームの機能と看護職の専門的役割	英国イングランドの地域精神医療と看護師の役割。第32回日本看護科学学会学術集会、東京、2012。 イングランドの地域精神医療における「連携」の実際。第17回聖路加看護学会、東京、2012。
蜂ヶ崎 令子 助教	2012/7/17～ 2012/9/21	米国	セントルークルクリニック、メディカルコーナークボレイクリニック、ハワイ大学他	米国における上級実践看護師(NP)の役割と活動	
小野 若菜子 助教	2012/7/31～ 2012/8/16	米国	セントフランシス緩和ケア/ホスピス病院、カイザーパーマネンテ医療センター他	看護師・看護学生を対象としたグループケア(遺族ケア)の教育プログラムの開発	
蛭田 明子 助教	2012/8/1～ 2012/10/7	米国	ラトガース大学、ハワード郡総合病院、アンアールンデル医療センター他	ペリネイタルロスで子どもを亡くした家族のケアに携わる看護者への支援～支援プログラムの開発に向けて～	
五十嵐 ゆかり 助教	2012/11/25～ 2013/1/28	イタリア	カレッジ病院、サンジョバンニ病院、モデナ大学、MEDU 他	イタリアにおける多様な背景を持つ女性への文化を超えたケア：医療施設と地域におけるスタッフ教育の現状	
新福 洋子 助教	2012/12/28～ 2013/1/12	米国	イリノイ大学シカゴ校、ノースカロライナ大学チャペルヒル校	汎用性のある紙芝居教材を用いたタンザニア農村部の妊娠期教育プログラムの開発と評価	
Yenita Agus 博士後期課程 3年	2012/6/10～ 2012/9/13	インドネシア	国立イスラム大学	Women's Satisfaction of Quality of Maternal Care; Midwife versus Traditional Births Attendant in Indonesia	Factors affecting women's choice of maternal health services; midwife versus TBA in Indonesia "Factors influencing the use of antenatal care in rural West Sumatra, Indonesia", BMC Pregnancy Childbirth. 2012; 12: 9. "Factors Affecting the Women's Choice of Maternal Health Services in Indonesia ; Midwife versus Traditional Birth Attendants" 2012年度聖路加看護大学大学院看護学研究科学位論文(博士論文)
忍田祐美 修士課程2年	2012/4/24～ 2012/5/3	バングラデシュ	Grameen Caledonia College of Nursing Dr. Barbra Parfitt	バングラデシュ、ダッカ在住の急性期看護師への救急診療場面を想定したロールプレイ型のケーススタディの学びを探求する	「バングラデシュ都市部の看護師らによるシミュレーションを用いた急性期看護継続教育ワークショップの評価」2012年度聖路加看護大学大学院看護学研究科学位論文(修士論文)
渡邊 奈穂 修士課程2年	2012/6/16～ 2012/6/25	オーストラリア	オーストラリア看護師連盟ヴィクトリア支部	看護師の勤務体制と人員配置に関する研究	
須坂 洋子 修士課程2年	2012/7/17～ 2012/7/25	英国	プリマス大学(国際協働論)	神経内科領域における遺伝専門看護師の実践能力	
喜納 瑞貴 修士課程2年	2012/7/17～ 2012/7/25	英国	プリマス大学(国際協働論)	イギリスにおける男性助産師による助産実践	
中留 理恵 修士課程2年	2012/9/1～ 2012/9/10	英国	International Conference on Communication in Healthcare 2012	保存期腎不全患者における疾患関連情報の入手とリスク対処行動の現状	「保存期慢性腎臓病患者の塩分摂取量とヘルスリテラシー情報源の関連」2012年度聖路加看護大学大学院看護学研究科学位論文(修士論文)

(3)アジア・アフリカ学術基盤形成事業

タンザニアの母子保健改善に貢献する持続的な若手研究者の育成

1. 役割・職務

「アジア・アフリカ助産研究センター」共同研究拠点

を形成し、交流を通して東アフリカ初となる助産学専門の修士課程をタンザニア・ムヒンビリ健康科学大学に設立する。

最終的な目的は、高い妊産婦死亡率の続くタンザニアにおいて、大学院教育を推進することで、助産教育を向上させ、Women-centered Care (女性中心のケア)、Evidence-based Practice (エビデンスに基づいた実践)

の概念に沿った臨床助産ケアの改善と妊産婦の健康の改善をもたらすことである。

2. 活動内容

1) 研究者交流・セミナー

2012年8月にタンザニアで開催した **Humanization of Childbirth** セミナーでは、123名の参加者を得て学び合うことができた。タンザニアにおいて“助産師は冷たい人”とのイメージが持たれている現状に対し、業務多忙や人材・設備不足の状況下であっても、ケアの精神を忘れず実践することが重要であり、社会の助産師イメージを変えることにつながるという発言が寄せられた。セミナー開催を通じ、助産師は高学歴であると同時に人々に寄り添う援助者である、という概念をセミナー参加者にもたらしたことが成果として挙げられる。

2) 研究

インドネシアの助産研究者が、本事業の活動を基に研究論文を発表した。Yenita Agus, Shigeko Horiuchi, and Sarah E Porter: Rural Indonesia women's traditional beliefs about antenatal care, *BMC Research Notes*, 2012, 5:589, doi:10.1186/1756-0500-05-589、本事業の成果がアジア他国への波及効果につながった。他国内外で5つ学会発表を行った。第7回聖ルカ・アカデミア(東京2013年、2月)英語セッションで発表した“Process report of the collaborative project to develop the Master's program in Midwifery in Tanzania: The seminar of “Humanized Childbirth” ”はアウトリーチの活動として高く評価され、実行委員長賞を受賞した。

3. 課題

本年度、タンザニア訪問に際し、今後国際的な助産研究に携わる意思を持つ日本側拠点機関の大学院生を3名同行させ、国際貢献の実際という多くの学びを得た。今後、大学院生の本事業への参画を恒常的に推進していくためのシステムづくりが課題である。

(4)専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業

「チームビルディング力養成プログラム」推進委員会

1. 役割・職務

1) 文部科学省専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業の採択を受け、大学院修士課程・上級実践コースにおいて、**People-Centered Care** (以下 **PCC**) を基本概念としたチーム医療を推進する高度看護実践家の育成を目的として、新規開講科目「特別講義『チームビルディング』」のカリキュラムを作成・実施し、評価を行う。

2) 特別講義「チームビルディング」の科目構成は、1) システムズアプローチと **PCC** の概念(講義)、2) チームを作る方策を具体的に理解する演習(合宿セミナー)、3) モデルとなるチーム医療の実践現場の見学(見学実習)、4) 実習におけるチーム作りの体験で構成し、保健医療の中での学際的チームを作る力を強化・育成し、チーム医療の効果を評価する視点をもつことができるように意図した。

3) 特に、合宿セミナーでは、米国ミシガン大学レクリエーション・スポーツ学部部長ジョン・スワロー氏、エリザベス・ゾルウェグ氏を招請し、軽井沢町において2泊3日のセミナーを開催した。両氏がミシガン大学で長年実践している「チャレンジプログラム」を本セミナーに導入し、体験型学習サイクルを用いて、チームを作る方法やコミュニケーションのとり方、メンバーやリーダーとしての役割発揮の方法、事例分析等を学習した。このセミナーを安全に開催するため、1年前からプログラム内容の事前打ち合わせ、道具の準備、合宿先ホテルの確保と詳細な段取りの打ち合わせ、**TA** の確保と打ち合わせを開始し、米国を訪問しての打ち合わせを含めた下準備を綿密に行った。

4) モデルとなるチーム医療の実践現場の見学については、上級実践コースの担当教員などが関連する医療機関7機関を選定し、事前の調整後、院生1~7名ずつ各機関に見学に出向いた。

2. 活動内容

1) 「特別講義『チームビルディング』」のカリキュラム作成、実施、および評価

前年度にカリキュラム作成を行い、4月からシラバスのとおり、本科目を開講した。

2) プロジェクトミーティング、オリエンテーション等の開催

表1 プロジェクトミーティング等の経過

開催月日	主な議題
4月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・米国ミシガン大学スワドロー氏、エリザベス氏とのプログラムミーティング(3/12-3/13 於ミシガン大学)の報告について ・宿泊先ホテルとの打ち合わせ(3/31-4/1 於：軽井沢すずかる荘)報告について ・科目オリエンテーション(4/12)の内容について
6月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・院生への合宿セミナーのオリエンテーションの実施(6/27)について ・参加申込みの方法について ・プログラムについて ・グループ分けについて ・グループワークの事例の作成について ・研究倫理審査委員会への研究計画書の提出について
7月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・合宿セミナーの内容について ・チャレンジプログラムに使用する道具の確認、注文について ・宿泊先ホテルとの最終確認(人数、部屋割り、名簿、インターネット環境)について ・研究倫理審査委員会の審査結果について ・モデルチーム医療の見学先について
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・通訳の手配について ・バスの手配について ・使用する道具の確認について
9月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・合宿セミナーの最終確認について ・モデルチーム医療見学要項の印刷について ・スワドロー氏、エリザベス氏との事前打ち合わせ(9/5)について ・通訳、TA とのプログラム打ち合わせ(9/5)について
9月7～9日	<ul style="list-style-type: none"> ・合宿セミナー開催中、評価会を開催
10月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・合宿セミナーの debriefing、および課題の明確化について ・アンケート分析結果について ・チーム医療見学の進捗について ・論文投稿の報告について
11月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療見学の報告について ・科目レポートの採点方法について ・実習ネットワーク会議の準備について(招待者、プログラム内容、司会) ・2013年度シラバス作成について
1月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ネットワーク会議について(3/18) ・レポート採点の結果と科目成績の提出について ・2013年度シラバス作成について ・院生への長期的評価について ・2014年度以降について

3. 課題と解決策

- ・講義を行った時期(4月)と、合宿セミナーを行った時期(9月)が離れていたため、科目の繋がりが分かりにくくなった。次年度は9月に集中講義と合宿セミナーを行い、見学実習も9月にスタートするよう、変更する。

- ・チャレンジプログラムを導入したことは、体験型学習サイクルに基づいてチーム作りを理解することにつながったため効果的であった。次年度も継続する。
- ・チャレンジプログラム進行中の各アクティビティ後の debriefing は通訳を介していたこともあり、意図したようには進まなかった。日本の院生は現場で生

じたことを言語化することに慣れていない。
Debriefing の時間をもっととり、言語化をはかるようにプログラムを改善する必要がある。

- ・チーム医療見学実習では、看護師を中心とした見学を行ったが、見学した職種の理解ができていない院

生がおり、質問の内容も稚拙なものがあつた。受講対象学生を上級実践コースに限定したが、看護学と助産学では、臨床経験や問題意識が異なっていたため、今後科目履修対象者を拡大して、修士論文コースの履修者も受講できるように変更する。

4. 資料データ

表2 履修者の専攻領域

上級実践専攻領域	性別	男性	女性
ウイメンズヘルス・助産学専攻		-	13名
看護学専攻 内訳		1名	10名
周麻酔期看護学		-	5
小児看護学		-	1
急性期看護学		-	1
在宅看護学		-	1
がん看護学		-	1
遺伝看護学		-	1
精神看護学		1	-
計		1名	23名

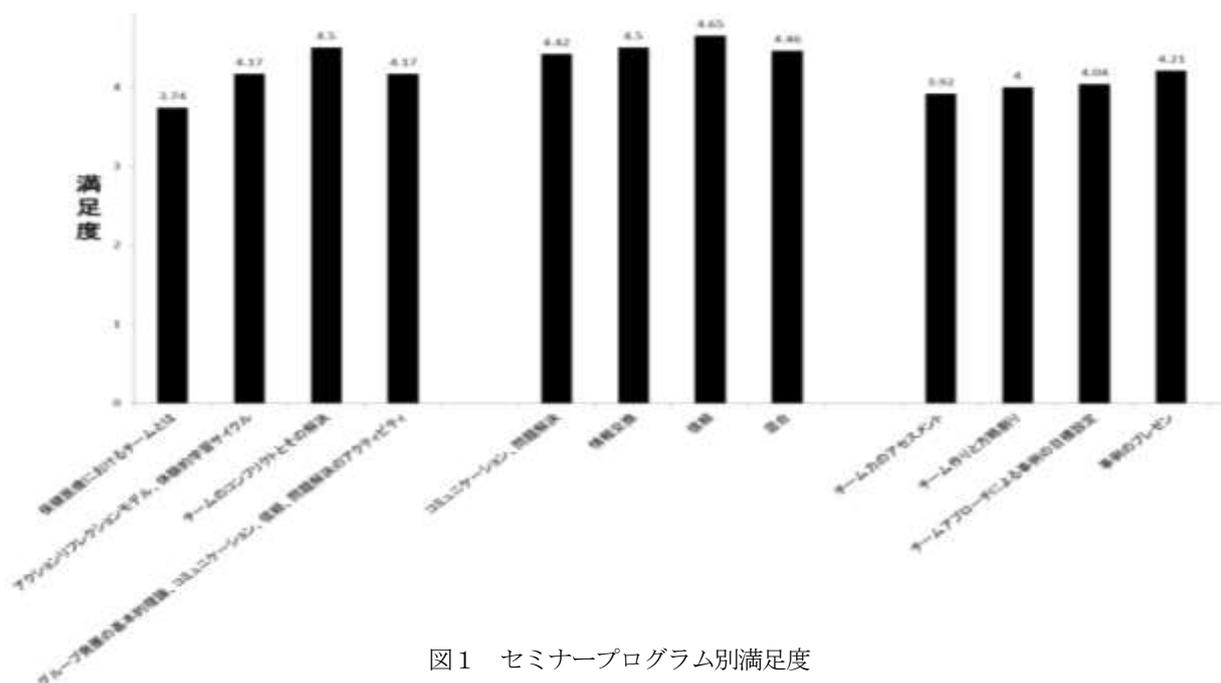


図1 セミナープログラム別満足度

投稿論文

亀井智子、飯岡由紀子、片岡弥恵子、宇都宮明美、山田雅子、萱間真美、菱沼典子. (2013). 修士課程「チームビルディング力育成合宿セミナー」プログラムに参加した上級実践コース履修者のチームビルディング意識の

変化とプログラム評価、聖路加看護大学紀要、第39号、36-46.

作成した website

<http://www.slcn.ac.jp/graduate/master/teambuilding.html>

3 図書館

(1) 図書館

1. 役割・職務

「聖路加看護大学図書館規程」、「聖路加看護大学図書委員会細則」による。

2. 活動内容

以下、新たに実施したこと、変更があったことに関して記述した。通常の活動実績は「4 資料・データ」にまとめた。

1) 学習・研究環境の整備

【課題】学内の学習環境のなかで図書館が担うべき機能と備えるべき設備を検討し、大学の将来構想への提案を行う。

【対応】将来構想委員会における検討をもとに、図書委員会でアクティブ・ラーニング支援における図書館の機能と設備について意見交換を行った。この過程で、効果的な支援を実現するために、まず組織や人材の開発を優先して取り組むことが確認された。設備については、創立百周年事業における全学的な施設整備の一環として検討されることになった。

2) 利用者とサービス

【課題】「災害時の組織的な行動マニュアル」を受け夜間の危機対応を検討する。

【対応】まず18:20-20:00の時間帯の対応について検討し「夜間における危機対応マニュアル(案)」を作成した。来年度以降、危機管理委員会における検討を経て完成させる。

3) 資料の収集と管理

【課題】電子化、書架の狭溢化、学生の積極的なサービス利用等の変化に対応した収集方針を決定する。

【対応】蔵書全体を包括する収集方針については他大学の例をもとに検討したが決定には至らなかった。現在、2010年度図書委員会にて承認された「外国雑誌のうち電子ジャーナルでアーカイブ権が保証されているものについて冊子体を中止する」という方針にしたがい電子化をすすめている。2013年の外国雑誌契約においては、電子版がない15タイトル、アーカイブ権が確認できなかった22タイトルを除き、すべて電子版に変更している。電子化、書架の狭溢化がすすんでいるため、収集方針の決定を急ぎ、書架の再編成を実施する必要がある。

3. 課題

- 1) 情報技術を用いたアクティブ・ラーニングを支援する人材育成の仕組みづくり
- 2) 電子的な情報源の積極的な収集と維持
- 3) 情報源の電子化に対応した書架の再編成

4. 資料・データ

表1 開館日数と入館者数

開館日数	(日)	272
うち土曜開館		46
入館者数	(人)	117,002
1日平均入館者数		430
(夜間)1日平均入館者数		29

表2 館内複写件数

複写機	179,238
月平均	14,937
プリンター	216,689

表3 ノートPCの貸出 (件)

学部生	院生	教職員	その他	計
457	84	5	4	550

表4 資料別の貸出し数

	学部生	院生	教職員	その他	総計
図書 (冊)	7,339	4,364	1,042	1,237	13,982
雑誌 (冊)	1,274	692	206	497	2,669
視覚資料 (巻)	82	12	59	9	162

表5 利用者別貸出し総件数

1年生	2年生	3年生	4年生	修士	博士	教職員	
545	2,292	3,430	2,428	4,373	695	1,307	
科目等履修生	研究生	研修生	卒業生	聖路加国際病院職員	研究センター研修生	その他	総計
4	0	0	608	800	292	39	16,813

表6 分野別貸出し冊数ベスト5

(冊)

1位	2位	3位	4位	5位
WY (6,308)	WS(571)	W(558)	WB(494)	BF(490)

表7 電子ジャーナルのダウンロード数

(件)

利用ポータル	全文ダウンロード
EBSCOhost	3,374
Journals Consult	1,204
Wiley Online Library	2,289
OVID SP	1,086
ProQuest	2,006
メディカルオンライン	9,403
CiNii	2,482

表8 カウンターにおけるレファレンス件数

	学生・院生	教職員	その他(学外者、研究生、博士研究員など)	計
所在・所蔵調査	448	19	18	485
事項調査	212	5	11	228
利用指導	635	20	60	715
文献検索相談	51	4	0	55
その他	72	2	4	78
計	1,418	50	93	1,561

表9 オンライン相談件数

	学生・院生	教職員	その他(学外者、研究生、博士研究員など)	計
所在・所蔵調査	0	0	0	0
事項調査	0	0	0	0
利用指導	5	2	0	8
その他	1	0	0	0
計	6	2	0	8

表 10 来館した学外利用者数

	学生・院生	教職員	その他	総計
人 数	38	9	14	61
複写件数	130		34	164

表 11 相互利用（文献複写）件数

当館から他館への申込件数		1,652	他館から当館における受付件数		1,220
申込者別 内訳※	学部生	552	受付館種別	大学・短期大学	1,01
	院 生	838		内 訳	その他
	教職員	244			
	その他	18			
申込先館 種別内訳	大学・短期大学	1,369			
	NDL	50			
	聖路加国際病院	174			
	海外(BLDSC,NLM)	1			
	その他	58			

表 11 蔵書点検結果（不明資料数）

	和	洋	合 計
図 書（冊）	14	13	27
ニュースレター・新聞・付録（部）	25	11	36

表 13 図書館利用教育

オリエンテーション	対象： 学部、学士編入、大学院修士課程、博士課程、各新入生、新入教職員
授業との連携	授業名（対象学年）： 看護学概論、情報処理演習（学部1年、学士編入2年）、家族発達看護論Ⅰ（学部3年）、 看護研究Ⅰ（学部4年）、看護研究法（大学院修士、博士1年）
研究センターとの連携	授業名（対象課程）： 看護情報論（認定看護師ファーストレベル）、文献検索・文献講読（認定看護師教育課程）、 文献検索～準備体操（ナーススキルアップ）
学生の要望による文献検索 ガイダンス	希望する大学院生、学部生のグループに、希望する内容でガイダンスを実施

表 14 展示図書

授業名	展示期間	展示内容
家族発達看護論Ⅰ指定図書フェア	2012年4月6日～5月11日	指定図書、模型、パネル
形態機能学 図書フェア	2012年5月14日～6月8日	形態機能学に関連する図書、模型
教員の著作展	2012年6月29日～30日、 7月27日～29日	オープンキャンパスに合わせて、 本学教員による図書を展示
形態機能学秋の図書フェア	2012年9月10日～11月9日	病理学、組織学、解剖・生理学の 図書、模型
周産期看護学（基礎）図書フェア	2012年9月21日～10月26日	関連図書、模型、パネル

表 15 社会的活動

	対象機関	派遣者
研修等の講師	東京都ナースプラザ (実習指導者研修)	松本直子
	神奈川県立こども医療センター (エキスパートナースコース)	〃
	日本看護図書館協会 (新人研修会)	〃
	図書館総合展 (図書館システム事例紹介 NJC日本事務器株式会社 主催)	新沼久美
図書館団体活動	日本医学図書館協会 医学図書館員基礎研修会実行委員長	松本直子
	日本医学図書館協会 国際交流委員長	佐藤晋巨
	日本図書館協会 健康情報委員会	〃
	健康情報サービス研修ワーキンググループ	〃

表 16 受入資料

		和	洋	合計	
図 書 (冊)	購入	図書館	926	36	962
		研究室	67	17	84
		研究センター	279	28	307
		教育共通	-	-	-
		助成金等	1	-	1
		製本雑誌	146	161	307
	寄贈	図書館	348	21	369
		研究室	1	-	1
		研究センター	7	-	7
		助成金等	303	78	381
合 計		2,078	341	2,419	
視聴覚資料 (巻)	購入	図書館	17	2	19
		研究室	-	-	-
		研究センター	1	-	1
		教育共通	10	2	12
	寄贈	図書館	8	-	8
		研究室	-	-	-
		研究センター	-	-	-
		助成金等	7	-	7
合 計		43	4	47	
電子図書 (点)	購入	図書館	2	-	2
		研究センター	-	-	-
	合 計		2	-	2
逐次刊行物 (誌)	全タイトル		704	120	824
	新規		3	2	増減
	中止		2	0	3
購読電子ジャーナル (誌)		887	1,178	2,065	
提供電子ジャーナル (誌)		13,842			

表 17 見計らい選書会 実施状況

日時： 2012年9月4日（火）13：00～6日（木）12：00

（入場できる時間： 10：00～18：00）

場所： 本館 403 教室

入場者数： 18人（教員：14人、学生：4人）

（4日：7人 5日：6人 6日：1人）

購入図書	233冊	1,317,164円
------	------	------------

表 18 除籍資料（大学全体）

	和	洋	合計（冊）
図書	751	151	902
製本雑誌	0	0	0
計	751	151	902

表 19 所蔵資料総数（大学全体）

2013年3月31日現在

	和	洋	合計
図書（冊）	58,573	11,092	69,665
製本雑誌（冊）	5,544	4,341	9,885
視聴覚資料（巻）	1,447	106	1,553
電子図書（点）	38	7	45
計	65,602	15,546	81,148

表 20 購読雑誌／電子ジャーナルの変更（2013年1月より）

新規に購読が決まったもの

No.	タイトル	出版者	頻度	
1	Journal of community genetics	Springer-Verlag	季刊	EJ
2	Patient education and counseling	Elsevier Science	月刊	EJ
3	急性・重症患者ケア	日本質的心理学会	季刊	冊子体
4	日本クリティカルケア看護学会誌	日本遺伝カウンセリング学会	年3回	冊子体
5	生命倫理	日本看護遺伝学会	年刊	冊子体
6	健	日本学校保健研修社	月刊	冊子体
7	多聴多読マガジン	コスモピア株式会社	年6回	冊子体

購読の中止が決まったもの（廃刊、休刊）

	タイトル	出版者	発行頻度	
1	Newsweek	中山書店	週刊	冊子体
2	Aera English	朝日新聞社	月刊	冊子体
3	日本看護学会論文集(2011より)	日本看護協会出版会	年刊	冊子体

表 21 データベースの契約

	タイトル	ベンダー	同時アクセス数
1	CiNii	国立情報学研究所	無制限
2	医中誌 web	医学中央雑誌刊行会	8
3	聞蔵	朝日新聞社	1
4	MAGAZINEPLUS	日外アソシエーツ	1
5	最新看護索引 web	凸版印刷	10
6	CINAHL Plus with Full text	EBSCO	4
7	PsycINFO	〃	無制限
8	SocINDEX	〃	無制限
9	MEDLINE	〃 (特約)	無制限
10	The Cochrane Library	Wiley InterScience	無制限
11	Nursing Allied Healthcare Source	ProQuest	無制限
12	Clinical Evidence	BMJ	無制限
13	Maternity and Infant Care	OVID	1
14	Medline Nursing Database	〃	1

表 22 その他、リソース・アプリケーションの契約

	タイトル (機能)	ベンダー	同時アクセス数
1	AtoZ、LinkSource (リンクリゾルバー)	EBSCO	無制限
2	RefWorks (文献整理ソフト)	ProQuest	無制限

表 23 リポジトリへの登録

コンテンツの種類	一次情報 (件)	二次情報 (件)
学術雑誌論文	397	397
学位論文	3	686
紀要論文	549	549
研究報告書	129	129
その他	347	6,617
計	1,425	7,510

表 24 図書館資料 決算額

(円)

図書	製本雑誌	視聴覚資料	電子図書	逐次刊行物	電子ジャーナル	データベース・リソース他
3,456,954	709,170	639,345	21,700	3,928,173	8,360,486	5,986,418

表 25 図書館委員会 議事内容

日 時	作業内容
4月10日 (火)	蔵書点検報告、2011年度年報、 2012年度図書館予定、2012年度委員会計画
5月9日 (木)	2011年度図書館運営報告 国会図書館における博士論文のデジタル化実施に係る著作権処理
6月5日 (火)	貸出区分として「授業貸出」の新規作成、リポジトリにおける年報の公開と申請書の見直し 「聖路加看護大学サポーター制度に関する規程」施行に伴う図書館利用細則の修正
7月3日 (火)	資料費執行状況報告 (4月～6月)、出張研修報告 (佐藤、イリノイ大学) リポジトリにおける年報の公開と申請書の見直し
9月4日 (火)	修正依頼のあった大学年報のリポジトリでの取り扱い、見計らい選書会、看護ネット 図書館でのWi-Fiサービス提供についての要望
10月2日 (火)	学内の情報環境変更、見計らい選書会、本学の学習環境と図書館の整備 (学事協議会 報告) 本学の学習環境と図書館の整備について、見計らい選書会購入図書検討、2013年新規購読雑誌 検討、本学紀要の保管
10月11日 (木) 臨時	図書館におけるアクティブ・ラーニング支援と環境整備検討
11月6日 (火)	見計らい選書会購入図書決定、本学の学習環境と図書館の整備 (学事協議会 報告) 2013年度図書館予算案、2013年新規購読雑誌・電子ジャーナル決定、本学の学習環境と図書 館の整備、図書館振興財団 振興助成事業補助金申請
12月4日 (火)	図書館振興財団 平成25年度振興助成事業 助成金申請、出張報告 (図書館総合展)、電子資 料契約における聖路加国際病院図書館との共同交渉、資料費執行状況報告 (10月～11月) 教職員による「学生へのおすすめ本」リストの作成
1月8日 (火)	図書館振興財団 平成25年度振興助成事業 助成金申請 結果、出張報告 (佐藤、立教大学池袋図書館見学) 「情報技術を用いたアクティブ・ラーニングを支援する人材育成の仕組みづくり」事業
2月12日 (火)	図書館スケジュール (蔵書点検等)、聖路加看護大学紀要のバックナンバー処分 OVID Nursing Full Textのアーカイブ購入、ProQuest NAHSと JBIの購入、図書展示コーナー の予約受付
3月5日 (火)	2013年度図書館事業計画 アクションプラン、年報 (状況報告)

表 26 学生図書委員会

日 時	内 容
4月25日 (水)	自己紹介、2012年度活動案の検討、委員会日程・司会、書記担当決定
5月23日 (水)	ブックレビュー募集のしおり配布検討
6月20日 (水)	しおり配布方法・周知方法の検討
7月11日 (水)	しおりデザイン修正検討、ブックレビューへリンクするバナー制作の検討
10月17日 (水)	しおりデザイン修正再検討、バナー決定
11月21日 (水)	しおり配布によるブックレビュー収集の途中報告
12月12日 (水)	しおり配布によるブックレビュー収集活動の評価、次年度活動案検討

表 27 海外研修

期間	派遣先	派遣者
2012年5月18日～6月19日	アメリカ医学図書館協会の年次大会 (米国 シアトル) Mortenson Center for International Library Program (米国 イリノイ大学)	佐藤晋巨
2013年2月27日～3月4日	TBLC (Team-Based Learning Collaborative) Conference (米国 サンディエゴ)	松本直子

表 28 学術情報の発信 「看護ネット」 訪問者数 (月別)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
37,274	44,326	45,404	44,738	39,080	44,444	47,258	45,726	38,844	50,800	44,191	37,035	519,120

(2)大学史編纂・資料室

1. 役割・職務

- 1) 本学に関連した史資料の収集・整理・保管
- 2) 収集史資料の公開・展示
- 3) 調査・研究および成果の発表
- 4) 自校史教育及び学習への支援
- 5) その他1)～4)に必要な事項

2. 活動内容

1) 課題の取組

資料室規程・資料収集基準を作成した。資料保管については大学の文書管理規程・文書保存規程が全面的に見直されたことを受けて2013年度以降に検討する。写真資料の整理状況を確認し整理手順をまとめて2013年度の実施計画を立てた。資料室職員がアーカイブズカレッジを受講し、インタビュー実施方法について検討した結果をまとめてコースを修了した。ブックレット1号の改訂版を制作中、2013年度完成見込みである。またブックレット2号以降の刊行構想と創立100周年史企画を取りまとめ、大枠について学長の承認を得、これに基づいて準備を進めることとなった。聖路加国際病院のアーカイブズと収集資料や業務についての情報共有を行い、また資料に関する聞き取り等の活動を共同で行うなど連携を深めた。

2) 通常の活動（「4. 資料、データ」参照）

3. 課題

- 1) 移管文書の受入体制と保管場所について事務局との話し合い
- 2) 史資料の開示に関する規程整備
- 3) ブックレット2号の企画
- 4) 創立100周年史の予算獲得と執筆・編集担当検討、資料収集の継続
- 5) 外国人居留地研究会全国大会が開催協力
- 6) 卒業生・遺族等への資料収集協力呼びかけ
- 7) 病院との連携に関するあり方検討

4. 資料・データ

- 1) 資料目録件数（年代別一覧） 2013年3月末現在

表1 入手経緯別 資料目録件数

	寄贈	貸与	購入	合計
2012年度登録	408	237	0	645
目録全体	1,297	513	1	1,811

表2 分類別 資料目録件数

	2012年度登録	目録全体
書類・手紙・証書	90	441
冊子・パンフレット	229	411
ノート	0	34
書籍	5	45
カード・葉書	50	66
記事	54	75
器具・物品	6	27
写真	190	494
記念品等	6	24
DVD・CD・ビデオ	6	8
その他	9	186
合計	645	1,811

2) 卒業生インタビューの収集

【年代別グループ/個人インタビュー】

- Class of 1954：山田恭子・内山芳子・宮本昭子・榎 仁子（7月31日）
- Class of 1957：深田清香・山本尚子・本多和子・田中昭子（11月7日）
- Class of 1953：相模はつ子（11月15日）

【特別企画】

「日本の看護教育のリーダー：学長としての私」
学長職にある卒業・修了生による座談会：河口 てる子（日本赤十字北海道看護大学）、丸山 知子（天使大学）、新道 幸恵（日本赤十字広島看護大学 前学長）、田村 やよひ（国立看護大学校）（6月17日）

【資料収集・貸借に伴う聞き取り】

- 新井克己氏（新井喜久子ご遺族）（4月19日）
- 森保子（別科 1945）（8月6日）
- 秋山秀子氏（秋山外子ご遺族）（11月9日）
- 竹内好香（Class of 1937）（10月29日）
- 岡田貞子（Class of 1941）（2月15日）

3) 展示室企画

【写真展示】

- 「ベッドメイキング」 5月9日～10月25日

-
- 「聖路加精神をあらわす言葉」 10月26日～1月17日
 - 「Class of 2013 & 学士14回生（学生展示）」 1月18日～2013年度まで展示中
- 【ケース展示】
- 「学園ニュース 300号記念展示」 6月7日～10月25日
 - 「先人たちの歩み-自伝や回想録などにみる足跡-」 10月26日～2013年度まで展示中
- 4) 調査・研究および成果の発表
- 第26回日本看護歴史学会ポスター発表：「太平洋戦争下の聖路加看護学生の活動」
 - 資料室 HP 「Lukapedia」継続
- 5) 自校史教育及び学習への支援
- 教育支援
 - (1) 「自校学習」開講（2012年4月、1年生前期選択）
 - (2) 学園祭参加（「歴史展示室クイズ」、同窓会共同）
- 6) その他
- 他組織機関との連携
 - (1) 全国大学史資料協議会における情報共有
 - (2) 築地外国人居留地研究会に協力して2013年度大会開催準備
 - (3) 東日本地区日本聖公会資料保管に関する協議会に参加（1月19日）
 - (4) NHK番組「Family History」へ調査協力（5月1日）
 - (5) 中央区女性史研究会へ調査協力（10月29日）
 - (6) 朝日新聞に資料提供（1月7日）
 - 広報等学内との協力
 - (1) 「学園ニュース」へコラム掲載（年3回）
 - (2) 「同窓会だより」へ大学史編纂資料室報告掲載（年1回）
 - (3) 校章・卒業章の変遷について大学運営会議へ調査結果報告（2月12日）

4 看護実践開発研究センター

(1)運営委員会

1. 役割・職務

看護実践開発研究センター運営委員会規定第3条に基づき、センター運営の基本方針に関する事、事業計画に関する事など、センター運営に関して審議した。

2. 活動内容

11回の運営委員会を開催した。今年度研究センター運営上の論点としては以下があった。

1) 研究センター事業について

○ PCC 実践開発部門19事業、キャリア開発支援部門22事業を展開した。

○ 2013年度に向け、PCC 実践開発室23事業、キャリア開発支援室19事業を展開する計画を立案した。

2) WHO コラボレーティングセンターとして5月に再委嘱された。委嘱機関は、これまでの学部から研究センターに移行した。以後、WHO コラボレーティングセンターのセンター長は、看護実践開発研究センターのセンター長が兼務する形とした。

3) 9月から、大学事務局にて、学内全規定の見直しが行なわれた。研究センターにおいても、以下のように規定等の構造および内容を見直した。

○ 聖路加看護大学看護実践開発研究センター規定
・聖路加看護大学看護実践開発研究センター構成
員細則

－聖路加看護大学看護実践開発研究センター
専任研究員選考内規

－聖路加看護大学看護実践開発研究センター
構成員内規

・聖路加看護大学社会連携事業に関する細則（聖路加看護大学共同事業功罪に関する細則より更新）

・聖路加看護大学看護実践開発研究センター認定
看護管理者ファーストレベル講習実施細則

・聖路加看護大学看護実践開発研究センター認定
看護管理者セカンドレベル講習実施細則

－聖路加看護大学看護実践開発研究センター
認定看護管理者講習運営委員会内規

－聖路加看護大学看護実践開発研究センター
認定看護管理者講習修了審査に関する内規

・聖路加看護大学における科学研究費助成事業取
扱細則（新）

・聖路加看護大学看護実践開発研究センター運営
委員会細則

－聖路加看護大学看護実践開発研究センター
施設利用内規

4) 学内組織全体の見直しに伴い、研究センターの組
織改変を実施した。

(ア)「部門」を「室」に変更する…組織全体のバ
ランスから考えると「部門」はもっと大きな
単位として使われるべきと考えられるため。

(イ)「事務局」の中の「研究支援室」を「研究セン
ター」の「研究センター事務課」とする。

5) 研究センター長任期満了等に伴い、次年度以降の
新人事案を整えた。

6) 東日本大震災後、福島県災害支援プロジェクトを
大学として実施することとなり、研究センターのPCC
実践開発部門の活動として取り組んだ。

3. 課題

1) 次年度、聖路加・テルモ共同研究事業終了後の事
業継続に関する財源確保

2) 聖路加国際病院との連携強化

3) 研究センター10周年(2013年)に向けた記念行事の
開催

4. 資料・データ

表1 看護実践開発研究センター運営委員会各回の主な議題

回数	開催日	議 題
第1回	4月10日	2012年度の組織と会議スケジュールの検討 福島災害支援プロジェクトの今年度の活動について 客員研究員・博士研究員の承認
第2回	5月8日	客員研究員の承認 PCC 実践開発部門サブグループのあり方について 研究センター施設利用について
第3回	6月12日	認定看護師教育課程規則改正について 客員研究員の承認
第4回	7月10日	センター10周年をどのようにするかについて 平成25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞受賞候補者の推薦について
第5回	9月11日	「聖路加・テルモ共同研究事業の公募」について
第6回	10月16日	「聖路加・テルモ共同研究事業の公募」について 2013年度センター事業の申請について 客員研究員の承認 第28回日本国際保健医療学会東日本地方会 後援について センター専任研究員継続申請及び次年度公募について 築地3丁目プロジェクトについて
第7回	11月13日	2013年度研究センター事業・聖路加テルモ共同研究事業「事業計画書」・予算（案）について 「聖路加・テルモ共同研究事業の公募」について 看護実践開発研究センター構成員に関する規程について 客員研究員の承認 客員研究員の英文委嘱状について
第8回	12月11日	2013年度研究センター事業・聖路加テルモ共同研究事業「事業計画書」・修正予算（案）について 研究センター関連規程の改正について 認定看護師教育課程規則改正について 認定看護管理者講習規則改正について
第9回	1月8日	研究センター関連規程の改正について
第10回	2月26日	次年度の研究センターの体制について 教員の大学院進学に伴う科研の継続について 次年度以降のセンター共有スペース内の柵使用ルールの取り決めについて ぼるかルームの椅子の買替えについて
第11回	3月12日	2013年度新規センター事業について 規程の変更について

表2-1 専任・兼任研究員および研究テーマ一覧（文部科学省科学研究費助成事業＜補助金・基金＞）

氏名	代表・分担	研究テーマ	研究種目
麻原きよみ	代表	「公衆衛生看護の倫理」教育のモデル構築と検証：カリキュラム・教育方法・教材の開発	基盤研究B
麻原きよみ	代表	保健師の倫理的実践に関わる自治体行政組織のエスノグラフィー	挑戦的萌芽
*有森直子	代表	女性のリプロダクション健康課題に対する意思決定支援の評価研究	基盤研究B
飯岡由紀子	代表	女性生殖器系がんサバイバーのためのテーラーメイドケアの開発と評価	基盤研究B
飯岡由紀子	代表	セルフトリートメントシステムの開発ーホルモン治療中の乳がん患者に焦点をあててー	挑戦的萌芽
飯田真理子	代表	多言語による簡易版“女性を中心としたケアー妊娠期尺度”の開発	研究活動 スタート支援

五十嵐ゆかり	代表	多文化共生社会に望まれる外国人ケアを習得するための周産期看護者教育プログラム	若手研究 B
伊東美奈子	代表	既卒採用看護師の職場適応促進策ー日本版メンターシッププログラムの構築に向けてー	若手研究 B
井部 俊子	代表	わが国の病院に勤務する看護師の交替制勤務のあり方に関する研究	基盤研究 B
及川 郁子	代表	小児看護における外来看護師育成支援プログラムの開発	基盤研究 B
及川 郁子	分担	子どものヘルスプロモーションのための予防接種介入プログラム・ガイドラインの作成(研究代表者:川口 千鶴)	基盤研究 C
大久保暢子	代表	脳卒中背面開放座位ケアプログラムの定着を促す看護師支援ツールの開発と評価	基盤研究 C
大隅 香	代表	妊産婦が安心できる助産師のワーク・ライフ・バランス実現に向けたアクションリサーチ	若手研究 B
大橋久美子	代表	看護師の行うモーニングケアの実態調査:術後回復を促すモーニングケアの導入にむけて	若手研究 B
大森 純子	代表	新興住宅地の向老期世代を対象とした“地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発	基盤研究 B
小野 智美	代表	日帰り手術に向けての幼児の自律性を支援する看護介入プログラムについての効果研究	基盤研究 B
小野 智美	代表	大都市・都市部以外に居住する幼児の経皮水分蒸散量(TEWL)の基礎的調査	挑戦的萌芽
小野若菜子	代表	訪問看護師を対象としたグリーンケア教育プログラムの開発	基盤研究 C
梶井 文子	代表	在宅認知症高齢者のための学際的チームの連携強化を支援する評価システムの開発と検証	基盤研究 B
片岡弥恵子	代表	DV女性と子どもの生き抜く力を支えるアドボカシープログラムランダム化比較試験	基盤研究 B
片岡弥恵子	代表	乳がん合併妊産婦の看護ケアスタンダードの構築	挑戦的萌芽
*亀井智子	代表	長期テレナーシングによる在宅呼吸不全患者の憎悪予防効果の検証とガイドライン創生	基盤研究 B
*亀井智子	代表	地域高齢者のための包括的転倒予防 SAFETY on! プログラムの開発と効果の検証	挑戦的萌芽
萱間 真美	代表	看護学の知識体系を構築するための質的研究方法を用いた学位論文指導プログラムの作成	基盤研究 B
萱間 真美	代表	認知症の周辺症状(BPSD)による精神病床入院から地域移行への看護ケアモデル開発	挑戦的萌芽
木戸 芳史	代表	精神疾患の未受診者や受療中断者等へのアウトリーチ支援が多職種チームに与える影響	若手研究 B
草川 功	分担	被災者の記憶に残る地域の伝統的生活文化の認識と再生・継承に関する研究(研究代表者:池邊 このみ)	基盤研究 C
倉岡有美子	代表	経口摂取に替わる栄養管理の導入を検討する患者・家族の意思決定支援ガイドの開発	研究活動 スタート支援
小林 真朝	代表	生活習慣特性を活用したコミュニティ支援プログラムの開発と評価	若手研究 B
佐居 由美	代表	看護実践における「安楽」の理論家〜ミックスメソッドデザインによる検証〜	基盤研究 C
新福 洋子	代表	汎用性のある紙芝居教材を用いたタンザニア農村部の妊娠期教育プログラム開発と評価	研究活動 スタート支援
高橋 恵子	代表	看護師の「市民目線に立ったケア」を育むリフレクションプログラムの開発	挑戦的萌芽
*田代順子	代表	インドネシアの看護・助産強化モデル開発と PHC 専門看護師育成の協働的開発	挑戦的萌芽
*田代順子	代表	高度実践看護師の臨床判断力強化支援のためのウェブアシスト学習プログラム開発・評価	基盤研究 B
千吉良綾子	代表	早期認知機能低下高齢者の包括的意思決定支援システムに関する基礎的調査研究	研究活動 スタート支援

角田 秋	代表	訪問看護師による精神疾患を有する人への電話相談の効果評価	若手研究 B
鶴若 麻理	代表	看護学士課程における体系的な新しい生命倫理教育の創出：アジア比較研究	若手研究 B
鶴若 麻理	分担	高齢者による医療の選択と意思決定を支える体制の構築に関する研究（研究代表者：高橋 龍太郎）	基盤研究 B
長松 康子	代表	困難が重積する中皮腫に関する看護職向け教育プログラムの開発と評価	基盤研究 C
永森久美子	代表	長期的な子育て力につながる「女性を中心としたケア」の実証	基盤研究 C
中山 和弘	代表	ヘルスリテラシー不足の患者・家族・市民を発見・支援する看護学習コンテンツ開発	基盤研究 B
中山 和弘	分担	特定看護師へのクラウド型 Advanced フィジカルアセスメント教育ツールの開発（研究代表者：藤井 徹也）	挑戦的萌芽
蜂ヶ崎令子	代表	点滴スタンド提供方法に関するモデルの提案	若手研究 B
林 直子	分担	オンライン学習と電子メール相談による子宮頸がんに対するリスクコントロールの促進（研究代表者：稲吉 光子）	基盤研究 B
林 直子	分担	乳がん早期発見のための乳房セルフケア促進プログラムの開発と妥当性の検討（研究代表者：鈴木 久美）	基盤研究 B
*菱沼典子	代表	看護技術の構成要素と効果－看護技術の確立に向けて	基盤研究 C
平林 優子	代表	慢性疾患幼児の在宅における療養行動発達支援を家族と協働する外来看護システムの開発	基盤研究 C
平林 優子	分担	難病疾患患児のためのモニタリングシステムを含む地域連携支援バスの開発（研究代表者：豊田 ゆかり）	基盤研究 B
蛭田 明子	代表	周産期喪失後の危機的状況を夫婦で歩み新たな家族をつくる物語	基盤研究 C
堀内 成子	代表	晩産化妊婦の心と身体を充電するプログラムの産後うつ病重症化への予防効果	基盤研究 B
堀内 成子	代表	タンザニアでの持続的な若手助産研究者教育課程の開発と評価	挑戦的萌芽
堀内 成子	分担	日本人体験者のナラティブに基づくペリネイタル・ロスのケアガイドラインの開発（研究代表者：太田 尚子）	基盤研究 B
松谷美和子	代表	看護学士号をもつ新人看護師に求められる臨床実践能力開発のための学習モデルの研究	基盤研究 B
三森 寧子	代表	現代の多様な子ども達に向き合う養護教諭の養成教育とカリキュラムに関する認識調査	研究活動 スタート支援
*森 明子	代表	妊娠を望む女性の気がかりとプレコンセプション・サポートの検討	基盤研究 C
柳井 晴夫	代表	臨地実習適正化のための看護系大学共用試験CBTの実用化と教育カリキュラムへの導入	基盤研究 A
柳井 晴夫	分担	医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題－看護職志望者の適正と大学入試－（研究代表者：倉元 直樹）	基盤研究 B
*山田雅子	分担	地域包括的視点に基づく看護管理学の創出に向けたアクションリサーチ（研究代表者：吉田 千文）	基盤研究 C

合計58件

表 2-2 専任・兼任研究員および研究テーマ一覧（厚生労働科学研究費補助金）

氏名	代表・分担	研究テーマ	事業名
梶井文子	分担	チームによる効果的な栄養ケア・マネジメントの標準化をめざした総合的研究～大学－施設連携による研究基盤・人材育成システムの構築のために～（研究代表者：吉池信男）	長寿科学総合研究事業
*亀井智子	分担	高齢者在宅医療に関する多職種協働の阻害要因を克服する克服する教育システムの構築に関する研究（研究代表者：鳥羽研二）	長寿科学総合研究事業
*亀井智子	分担	認知機能低下高齢者への自立支援機器を用いた地域包括的ケアシステムの開発と評価（研究代表者：藤原佳典）	認知症対策総合研究事業

萱間真美	代表	アウトリーチ（訪問支援）に関する研究	障害者対総合研究事業
萱間真美	分担	新しい精神科地域医療体制とその評価のあり方に関する研究(研究代表者：安西信雄)	障害者対総合研究事業
堀内成子	研究協力	「看護師等の高度な臨床実践能力の評価及び向上に関する研究」(分担研究者：池ノ上克、宮崎大学) 班	地域医療基盤開発推進研究
堀内成子	分担	「母子保健に関する国際的動向及び情報発信に関する研究(H24-次世代一般-005)」(研究代表者：森臨太郎)	成育疾患克服等次世代育成
*山田雅子	代表	診療報酬の適正評価のための看護ケア技術体系化に向けた研究	政策科学推進研究事業

合計8件

表2-3 専任・兼任研究員および研究テーマ一覧（その他の研究課題）

氏名	代表・分担	研究テーマ	研究種目
麻原きよみ	代表	保健師による実際的な放射線防護文化のモデル開発・普及と検証：放射線防護専門家との協働によるアクションリサーチ	環境省 平成24年度原子力災害影響調査等事業「放射線の健康影響に係る研究調査事業」
梶井 文子	代表	認知症バストケアパートナー養成市民講座	公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団「市民講座開催への助成」
萱間 真美	代表	精神障害者退院促進支援事業	東京都中央区事業委託
鶴若 麻理	代表	ハンセン病患者への看護ケアに関する日台比較研究ーハンセン病回復者へのインタビュー調査から	上廣倫理財団平成24年度研究助成
長松 康子	代表	重篤な症状が累積しやすい胸膜中皮腫患者の QOL 向上を目的とする看護師むけ緩和ケア教育ワークショップの開催と評価	公益財団法人笹川記念保健協力財団「2012年度ホスピス緩和ケアにおける QOL の向上に関する研究助成」
*菱沼典子	代表	年代による特徴を反映させた市民向け骨粗鬆症予防のための教材における活用評価	聖路加看護学会看護実践科学研究助成金

合計6件

(2) People-Centered Care (PCC) 実践開発部門

1. 役割

PCC 実践開発部門では看護実践開発研究センターの一部門として、People-centered health care にもとづく新たな看護サービスモデルの研究的開発、および看護モデルの実践提供を通じて、市民主導型看護ケア（PCC）のあり方を探求している。

- 1) 専任・兼任研究員が事業主となり、さまざまな世代にある人々のさまざまな健康課題に焦点をあて、ナースクリニックの場において、広く市民に看護実践を提供するとともに、研究成果を蓄積し、根拠のある看護を開発・創生する。
- 2) 各事業主が学部生、大学院生、専門職、他大学の

教員等を対象として、看護の実践開発を理解する等の目的で教育の機会、および場として各事業を提供する。

2. 活動内容

1) 事業の推進

看護ケア部門の各事業は、年度当初の計画のもとに計画的に事業を実施した。

開催回数、参加者数は表1の通り、年間3,601人の市民を対象に事業が展開された。

2) PCC 部門ミーティング

本部門に属する研究事業全体の内容や課題、および様々な対象者に安全に事業を展開するための方法について話し合うため、事業主によるミーティング

を年間3階開催した。

3) Quality control

本部門に属する事業の質を維持・向上するために「構造－実践過程－成果」の各要因から事業の質評価を行っている。今年度から、各事業に参加した者によるプログラム参加満足度を0～10のVAS (visual analogue scale) により評価した。表に示したように、どの事業も参加者の満足度は高かった。また、安全に看護実践を提供するため、事業開始時に各事業ごとに安全対策指針を策定

し、それにもとづく安全対策を実施して各事業を展開した。事業開催中のインシデント(転倒)が1件報告されたため、事業内で安全対策の方法を再検討した。

3. 課題

研究者と市民との協働により看護実践を研究開発する上で、最も重要な要素は相互のコミュニケーションと安全管理であると認識している。引き続き、事業主間のミーティングを通して情報交換等を継続したい。

表1 PCC 実践開発部門が実施した事業のまとめ

事業名	事業主	構造要因	プロセス要因			アウトカム		
		会場場所	事業主以外の学内従事者	学外従事者	プログラム	開催回数	年間参加者数	参加者満足度 ^a
赤ちゃんがやってくる	片岡弥恵子	聖路加産科クリニック	堀内成子	土屋麻由美	新しく赤ちゃんを迎える家族、特に姉妹が妊娠・出産・新生児について学ぶことで、赤ちゃんを迎えるこころの準備を行う・姉妹になる子どもたちが、生命の誕生について学び、体験を共有することで、自分の生・性を大切にすることができるように働きかける	5回	128人 (44家族)	9.3
天使の保護者ルカの会	堀内成子	2号館3階交流ラウンジ	堀内成子 蛭田明子	太田尚子 石井慶子 北園真希 勝又里織 星野浩一 堀内祥子 今村美代子	体験者同士のお話会 手作りの会 (ファーストステップシューズ、エンジェルキルト)	8回	65人	9.0
天使の保護者ルカの会; グリーフカウンセリング	堀内成子	2号館5階ミーティングルーム	—	堀内祥子 石井慶子	グリーフカウンセリング 面接	17回	17人	—
「自分のからだを知ろう」おはなし会	菱沼典子	杉並区中央図書館	岩辺京子 三森寧子 松谷美和子 佐居由美 大久保暢子	村松純子 中山久子 瀬戸山陽子 世良喜子 石井祐子 杉並図書館員 延べ9名 カメラマン1名	未就学児向け健康教育プログラム3回シリーズ ①消化器、骨と筋肉 ②循環器、生殖器 ③泌尿器、神経系 各回60～90分	3回	74人	参加してよかった。うちでも子どもが話す。
子どもの健康、知ろう、考えよう～子どもの健康を家族と考える学習・交流会	及川郁子	2号館3階交流ラウンジ、多目的ルーム 本館 601・602教室	平林優子 小野智美 眞鍋裕紀子	西野理英 下平友紀恵 加藤章子 大島千絵子 常山由美子 一之瀬くに子 藤澤真菜美 石川知恵子 合田直子	・虫歯のない歯でおいしく食べよう～正しく食べてすくすく育つために～ ・子どもの事故と応急処置・心肺蘇生法 ・子どものアレルギーについて ・子どもにかかりやすい病気と薬・予防接種 (よくある質問) ・子どもとの関わりのコツ	5回	175人	8.8
乳がん女性のためのサポートプログラム	大畑美里	2号館/本館	大坂和可子 (博士課程) 川端愛	金井久子(聖路加国際病院) 矢ヶ崎香 小松浩子(慶應義塾大学)	乳がんを体験した女性同士が集い自由に話し合う場の開催に加え、年に2回、乳がんに関する学習会を行った。	9回	254人	9.1

a: 参加者満足度は0～10のVASによる平均値

リンパ浮腫 ケアステーション	大畑美里	2号館3階 相談室	本田晶子	矢形寛 井上貴久美 中曽根朋子 金井久子 芳賀千織 細川恵子(聖路 加国際病院) 佐藤佳代子 米原恵理子 恒藤靖子(後藤 学園) 矢ヶ崎香 小松浩子(慶応 義塾大学)	がん看護を専門とする看護師、 あん摩マッサージ指圧師、乳が ん専門医がチームを組織し、が ん体験者へのリンパ浮腫の予 防、早期発見に関する教育、ケ アの提供、悪化予防のための専 門医への連携とコンサルテーシ ョンなど、統合的なケアを実施 する。	46回	206人	9.8
ダウン症候群 のよりよい療 育環境検討会 ー中央区ー 「ボルカの会」	有森直子	2号館1階 ぼるかるー ム	大浜あつ子 本学大学院 生・学部生	聖路加国際病院 看護師/医事課 神奈川県立こ ども医療センター 看護師、モンテ ッソーリ北尾ク ラス(北尾都先 生) 音楽家、助産師 (川島広江先生)	5月「話し合い」・6月「自分の 体を知ろう」・7月11月2月「大 浜先生の体操」・9月「セクシ ャリティーの講演会」・10月「音 と人とのふれあい体験」・12月 「更衣(ぼたんのかけかた)」・1 月「モンテッソーリ教育」・2 月「ミニミニコンサート」	9回	215人	9.2
介護者のため のリフレッシュ アートプロ グラム	梶井文子	2号館1階 ぼるかるー ム	亀井智子 千吉良綾子	矢沼秀美 NPO アロマテラ ピーボランティア 協会 渡邊純子	認知症高齢者の介護者家族のた めの認知症の理解や接し方等の 教育的 content と、介護者間の情報 交換や心身の気分転換を促すた めの content を提供した。	8回	37人	9.9
高齢者ご家 族へオンリー ワンの「思い 出帳(メモリー ブック)」 作りプロジェ クト	千吉良綾子	2号館5階 ミーティン グルーム、 および対象 者宅	山本由子(博 士課程)	浅賀智恵子	幼少期、青春時代など毎回のテ ーマに沿った写真を認知症の方 とご家族に持参してもらい、ラ イフレビューを促し、セッション で語られた言葉や写真を用 い、メモリーブックを作成する。	6回	4人	8
多世代交流型 デイプログラム 聖路加和み の会	亀井智子	2号館1階 ぼるかるー ム、地域散 策他	梶井文子 千吉良綾子 山本由子(博 士課程) 渡邊麗子(修 士課程)	地域在住のボ ランティア 中央区書道連 盟 岡村大 NPO アロマセ ラピーサポー トセンター大 場奈緒	都市部在住の小中学生と高齢者 の世代間交流を促進し、高齢者 世代から子ども世代への知恵と 文化の伝承、子ども世代の高齢 者理解を促進し、互恵的ニーズ の充足、ヘルスプロモーション、 およびソーシャルキャピタルを めざした看護ケアの提供。	27回	514人	高齢者 9.5 子ども 8.5
転倒骨折予防 実践講座	亀井智子	本館地下ア ーツルーム	梶井文子 千吉良綾子 山本由子(博 士課程) 金盛琢也・渡 邊麗子(修士 課程)	新野直明 入江由香子 杉本知子他	地域在住高齢者の転倒、および それに伴う怪我の予防のため に、心身機能の測定、各種ミニ 講義、運動プログラム、啓発用 教材等を用いた転倒骨折予防の 包括的プログラムを提供	6回	151人	9.5
在宅酸素療法 を行う方への テレナーシ ング	亀井智子	利用者宅	山本由子(博 士課程) 聖路加国際 病院医師	—	慢性閉塞性肺疾患で在宅酸素療 法を行う方を対象として、ネッ ト端末を貸与して心身の状態を 遠隔モニタリング、およびトリ アージし、テレメンタリング、 および看護・保健指導を行い、 急性増悪を防いで安定療養に資 する。	—	—	—
はじめの一歩 の会	山田雅子	2号館5階 ミーティン グルーム	麻原さよみ	篠原良子 勝田高之 木村紀子 他	ケアマネジャーからの紹介を受 け、在宅療養者へインフォーマ ルな生活支援サービスを届ける 活動を実施、家で死ねるまちづ くりについて「語る会」を年1 回開催	12回	132人	7.5

a: 参加者満足度は0~10のVASによる平均値

るかなび	山田雅子	2号館1階 ぼるかルーム、中央区保健所(中央区健康福祉祭り)	菱沼典子 有森直子 高橋恵子 佐藤晋巨 高木裕也 真部昌子 牛山真佐子 藤田淳子 るかなびボランティア(専門職/市民)	テルモ(株) チラン掲載協力施設:聖路加国際病院、中央区近隣住民・施設(商店街、銀行、図書館等)	1)【一般市民向け】:健康相談、健康測定(骨密度、体脂肪、身長・体重、血圧など)、情報閲覧サービス207回/年 ランチタイムミニ健康講座&ミニコンサート10回/年、 CHADO(ティーサロン)11回/年、 中央区健康福祉祭りへの健康支援活動参加1回/年、 白楊祭へのバザー参加1回/年	207回	1063人	9.1 (2月のランチタイムミニ健康講座の参加者)
					2)【市民・専門職ボランティア向け】:ボランティアミーティング5回/年、 ボランティア全体会2回/年、 ボランティア勉強会4回/年、 るかなびブックリストミーティング8回/年	19回	54人	
聖路加・テルモ共同研究事業 新健康カレッジ	高橋恵子	本館アリスC.メモリアルホール	看護実践開発研究センター教職員 るかなび運営メンバー ボランティア 本学大学院生・学部生	テルモ(株)中央区近隣施設	1)聖路加市民アカデミー:「自分らしく生きるための心の準備」特別メッセージ:日野原重明、講演:上野千鶴子、 ミニコンサート:渡辺峨山、 中林万里子、江森正敏	1回	344人	—
					2)カレッジセミナー(全4回シリーズ)「もっと知ろう 自分のからだ」 講師:上村昭博(聖路加国際病院)、 亀井智子(本学老年看護学教授)、 門伝昌己(聖路加国際病院)、 西裕太郎(聖路加国際病院)	4回	168人	9.5
予防接種講座	堀成美	—	—	—	—	—	—	—

a: 参加者満足度は0~10のVASによる平均値

(3)キャリア開発支援部門

1. 役割・職務

- PCCの実現に向け、看護職の継続教育プログラムを提供する
- 部門長は、看護職の継続教育に関する各事業に対し、必要な教育システムが適切に運営されているか、各教育プログラムの成果を評価する視点を持って参画する
- 教育研修担当は、認定看護管理者講習及び認定看護師教育課程が円滑に運営されるよう部門長のサポートのもと活動する
(2012年度 第1回看護実践開発研究センター運営委員会資料1-1の中に)

2. 活動内容

- 部門会議は3回開催した(2012年5月8日(火)、7月10日(火)、11月13日(火))
- 今年度の看護職の継続教育プログラムは24事業であった(表1)
- 今年度の重点活動計画として、看護職の継続教育プロ

グラムの評価が挙げられた

(2012年度 第1回看護実践開発研究センター運営委員会資料1-2の中に)

1) 評価項目の設定

各事業共通の評価項目がない現状のため、まず、実績を把握するための項目を決めた。

実績把握項目は次のとおりとした。*担当者数、担当者以外の講師数等、担当者数+担当者以外の講師数等、*講義時間(時間/日)、*講義日数、*定員、*受講者数;予定のべ人数、実績のべ人数、実績のべ人数/予定のべ人数、*応募登録者数、*応募割合(応募登録者数/定員)、*受講者情報[受講者の地域(都道府県)、所属、職種、年齢・年代]、*受講者への満足度調査実施の有無

2) データ収集

1)に定めた実績把握項目について、2011年度のナーススキルアップ講座15事業および認定看護師教育課程3コースおよび認定看護管理者ファーストレベル講習の実績に関する情報収集を行った。これらの情報収集に利用した情報源は、催し物案内・研究セ

ンター報告書・年報・事業申請書・支援室保有のファイル等であった。これらの資料から得られなかった項目については、各事業担当者にヒアリングを行った。

3) 評価結果

- ・認定看護師教育課程を除き他の講座では、聖路加国際病院の看護職の受講者がいなかった。
この結果を受けて、聖路加国際病院教育・研修センター担当者へのヒアリングを行ったところ、広報活動、受講回数と時間帯、学習者のニーズとテーマ等に課題があり、工夫を要することがわかった
- ・受講者は看護師(86%)が圧倒的に多く、保健師(2%)、助産師(2%)ときわめて少なかった
- ・比較的近郊からの受講者が多かったものの、北海道、本州、四国、九州と全国に分布した
- ・事業全体の1/4ほどが定員を充足している(定員割れ事業が3/4)
- ・認定看護師教育課程を除き他の講座では、受講者の年代・年齢を確認していたのは3事業のみで確認していない事業が大半であった。確認できた範囲では40歳代(52%)の受講者がもっとも多く、次いで30歳代(26%)であった。
- ・認定看護師教育課程を除き他の講座では、受講者の満足度調査を実施していたのは15事業中5事業(アンケートが3事業、ラップアップセッションが2事業)であった。

4. 資料・データ

表1 2012年度キャリア開発支援部門事業実績

(1) ナーススキルアップ講座

No.	講座名	開催数	受講者数
1	看護管理コンサルテーション	随時(予約制)	0
2	緩和ケアコンサルテーション	随時(予約制)	0
3	在宅看護コンサルテーション	9回(予約制)	6
4	看護研究コンサルテーション	随時(予約制)	9
5	語り合おう!看護マネジメント - 看護管理者のための‘サポートグループ’	5回/年	44
6	退院調整看護師養成プログラムと活動支援	1コース/年	47
7	精神看護事例検討会	2回/年	46
8	がん看護事例検討会	3回/年	1
9	英文献を読もう!パートⅠ～基礎編～	2コース/年	8
10	英文献を読もう!パートⅡ～構文理解強化コース～	2コース/年	8

3. 課題

1) 学習ニーズに合った講座と受講しやすい開催方法による受講率の向上

- ・聖路加国際病院ナースマネージャー会に研究センターキャリア開発支援部門員が催しの案内チラシ等を持参する
- ・看護職向けの研究方法・研究成果公表のしかたに関する講座を開催する
- ・専門看護師(CNS)「の更新ポイントにつながる研修を積極的に行う。小児、老年、地域、急性期等で検討してもらう
- ・保健師、助産師向けの講座をつくる
- ・新人看護師向けの講座(講義の後に交流会を持つなど)をつくる

2) 各事業共通の評価項目の徹底と継続評価

- ・受講者に年齢は聞きづらい、また年齢より臨床経験年数が重要である、との検討から、講座ニーズを把握するため、「臨床経験年数」を事業共通の情報収集項目とする。次年度の催し物案内に入れる
- ・受講者数が少数の事業では難しさもあるができるだけ「満足度」を把握することを事業者に検討していただく

3) 研究センター事業収入への貢献

- ・人気のあるテーマで単発に開催するなど、研究センターの収入につながる事業を検討するプロジェクトをつくる

11	不妊症看護認定看護師ポストコース	1回/年	48
12	がん化学療法看護認定看護師 スキルアップセミナー	1回/年	84
13	訪問看護スキルアップセミナー	4回/年	44
14	実践・在宅ケア入門 ～全ての対象者に緩和ケアを～	3回/年	21
15	看護職のための予防接種講座	—	—
16	看護管理塾	2回/年	16
17	ELNEC-J 聖路加 ～すべてのナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケア～	2回/年	87
18	臨床疫学研究入門	5回/年	102(延べ)
19	文献検索 ～準備体操～	3回/年	14
20	聖路加看護大学・パラマウントベッド株式会社看護教育共同事業 クリティカルケア・シミュレーション教育プログラム SCC セミナー	12回/年	96

(2) 認定看護管理者講習・認定看護師教育課程

No.	教育課程	開講期間	受験者数	合格者数	受講者数	修了者数
21	(認定看護管理者) ファーストレベル講習	8/20～9/21	97	96	93	93
22	(認定看護師教育課程) 不妊症看護コース	6/1～2/28	9	9	9	8
23	がん化学療法看護コース	6/1～2/28	30	28	28	26
24	訪問看護コース	6/1～2/28	18	18	16	14
	計		57	55	53	48
	合計		154	151	146	141

() 内は修了延期者の内数

(4) 研究活動支援部門

1. 役割・職務

- 1) 研究助成金情報の提供
- 2) 科研費の申請経理手続き
- 3) 研究コンサルテーション
- 4) 研究倫理コンサルテーション
- 5) 研究助成に関する選考

2. 活動内容

- ・上記の活動内容実績数は、表1参照。

・3)～5)に関して、研究倫理委員会と協働し、「研究倫理審査」(便覧)内容の検討、今後の研究支援体制について、試案を作成し研究科委員会に諮った。

- ・1)～5)すべての活動内容に関して、聖路加国際病院研究管理部との意見交換の交渉を始めた。

3. 課題

- 1) 科研費申請経理業務の効率化。
- 2) 研究コンサルテーション、研究倫理コンサルテーションにおける研究科委員会および研究倫理委員会との役割分担の明確化。

4. 資料・データ

表1 研究支援部門活動実績

活動内容	件数	活動方法・手段等
(1) 研究助成金情報の提供	27件	学内メールによる周知
(2) 科研費の申請経理手続き	68件*	科研事務の諸ルールに基づく
(3) 研究コンサルテーション	37件	研究計画に応じた対面相談
(4) 研究倫理コンサルテーション	0件	研究倫理審査に関する対面相談
(5) 研究助成に関する選考	1件	研究助成に関する選考委員会規定に基づく

*科研採択率

文部科研：本年度交付 48 件+23 年度繰越 4 件+他機関分担分 10 件=62 件

厚生科研：6 件；計 68 件

文部科研採択率：新規・継続分 96%（新規採択率 89%）

(5)WHO コラボレーティングセンタープライマリヘルスケア WHO 看護開発協力センター事務局

(WHO Collaborating Center for Nursing in
Development in PHC)

1. 役割・職務 (WHO PHC 看護開発協力センター事務局細則)

1) 第6期 (2012～2016) 看護実践開発研究センターにおける以下の People-Centered Care(PCC)開発事業等について成果をとりまとめる。

①コミュニティを中心としたケア；②世代間交流活動；③家族を中心としたケア；④ 女性を中心としたケア；⑤高齢者を中心としたケア；⑥看護職者の保健チーム形成；⑦遺伝的問題を持つ家族を中心としたコミュニケイションシステムの開発；⑧アフリカ・アジアでのグローバルパートナーとの看護・助産職強化の研究成果に関する統合と発信

2) WHO 看護協力センターの活動の国内外への発信
3) WHO 本部及び WPRO からの情報の学内及び国内関連機関との共有
4) 看護・助産学系の WHO C.C.グローバルネットワークへの参与と連携

2. 活動内容 (上記1に沿って記述)

1) PCC 開発事業

① 2011年度研究活動：WHO WPRO への報告：

2010年度本看護実践開発センターでの市民主導型ケア開発研究を WPRO、WHO 本部へ年次報告書で提出し、Web で公開した。(備考1)。

② WPRO、WHO 本部へ提出予定の、2012年度研究活動報告書を準備中である。

2) 活動の国内外発信

① 国内広報として日本看護協会出版会「看護」WHONEWSに隔月に連載。Web で公開(備考2)。

② 厚生省大臣官房国際課主催の「国際看護活動に関する情報交換会」にて、本センターの活動を報告し、情報を交換した。

(出席機関：看護課、日本看護協会、国立国際医療センター、兵庫県立大学 災害看護 WHO 看護開発協力センター)

③ WHOC. C. グローバルネットワークの「Nursing & Midwifery Links」へ記事を送付した。

a) 東日本大震災の「きぼうときずな」プロジェクト

http://www.parlatore.com.br/whoccc/nml_june_2012.pdf

b) 国際連携プロジェクト (タンザニアプロジェクトとインドネシアプロジェクト) の記事を送付した。

④ 活動概要紹介を、英文で作成した。近日中に Web で公開予定である。

3) WPRO 看護アドバイザーからの情報を学内および看護・助産コンソーシアムメンバーと共有

4) グローバルネットワークへの参与とその他国際連携

① アジア・アフリカ 助産研究センター；タンザニア、ムヒンビリ大学健康科学大学の助産修士課程（研究者育成コース）の設立協力を行っている。加えて、本年、8月30日、31日にタンザニア、ダルエッサラームにて『人間的な出産』セミナーを、タンザニア臨床助産師対象に、本学プロジェクトチームが加わり、開催した。

②インドネシア、看護助産強化への協働

- ・イスラム大学からの博士課程院生は博士号を取得し、4年2名の留学生の博士論文研究の支援を継続している。
- ・インドネシアにおける看護助産強化策を、ステークホルダーが考える看護・助産強化モデルをイスラム大学の研究者とともに協働的研究を進めている。

③ 2012年6月28日、29日に開催された2年毎総会に参加し、さらに、6月30日、7月1日開催のWHO C.C.グローバルネットワークとの学術大会を企画、実行活動を支援した。

3. 課題

- 1) 日本型 PCC 研究の統合の体制づくり
- 2) グローバルヘルス向上のための国際連携の強化

4. 資料・データ

(Word または Excel または Power Point)

備考1) WHO 看護開発協力センターのホームページで公開中。

備考2) WHONEWS 一覧：聖路加看護大学 WHO プライマリヘルスケア看護開発センターWeb 上及び「看護」雑誌（日本看護協会出版会）で公開

	執筆者	テーマ	「看護」
2013年03月	高橋 恵子	Community Centered Care	第65巻第3号
2013年01月	及川 郁子	Child & family Centered Care (FCC)	第65巻第1号
2012年11月	新福 洋子	日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業：タンザニアでの「人間的なお産」セミナー	第64巻第13号
2012年09月	山田 雅子	「WHO看護開発協力センター・グローバルネットワーク総会」報告	第64巻11号
2012年07月	田代 順子	聖路加看護大学 PHC/WHO看護開発協力センターの第6期活動開始	第64巻8号
2012年05月	小黒 道子	健康課題である飲料水と衛生設備の確保	第64巻6号

(6) るかなび運営会議

1. 役割・職務

- 1) るかなびの活動計画を立案する。
- 2) るかなびの運営に必要な企画・手段等を検討し、問題があれば改善策を講ずる。
- 3) 研究センターの機関事業として機能するよう、活動を推進する。

2. 活動内容

- 1) 11回の運営会議を開催し、るかなび運営に関する諸事を「実践活動（健康支援サービス）」「地域連携」「教育」「研究」の側面から検討し、その活動を推進した。

- 2) 活動資金獲得のために寄付金（るかなび基金）の広報手段について検討し、配布用のチラシを新たに作成した。

3. 課題

- 1) People-Centered Care (PCC) の実現
- 2) アカデミック・ナーシング・プラクティスとしての挑戦
- 3) 図書館機能としての挑戦
- 4) 継続的發展へのしゅみ（財政基盤と人材）作り
*課題の詳細については別表の活動報告）参照

4. 資料・データ

2012年度 るかなび活動の実績

2013. 3. 31現在

るかなび事業	実施概要	人数など
実践活動 (健康支援サービス)		
健康相談・健康測定 (骨密度・体脂肪・血圧)	207日/年	利用者総数 721名 (うち骨密度測定者 526名)
ランチタイムミニ講座・ミニコンサート	10回/年	参加総数342名
CHADO	11回/年	参加人数約100名
ボランティアミーティング	5回/年	参加人数72名
るかなび全体会	2回/年	参加人数62名
ボランティア勉強会	4回/年	参加人数69名
開病記ブックリストミーティング	8回/年	参加人数89名
中央区健康福祉祭への参加 (10月)	1日/年	るかなびブースへの来訪者約200名
白幡祭への参加 (11月)	1日/年	2号館1階にてバザー実施
教育活動		
POC概論：コミュニケーション実習	1日	1名 (学部1年生)
POC概論：自分の生活と健康の調査 (骨密度・身体計測)	3日	96名 (学部1年生/学士16回生)
認定看護師教育課程：演習	健康講座計画・実施	16名 (認定看護師教育課程 (訪問看護コース) 受講生)
認定看護師教育課程：演習	健康相談実習 (1日/名)	16名 (認定看護師教育課程 (訪問看護コース) 受講生)
るかなび難病記文庫利用		計286冊 (学部生 151、院生 3、教職員 4、るかなびボランティア 128)
地域連携		
ボランティア	登録者総数	54名 (市民ボランティア32名、専門職ボランティア22名)
中央区内におけるるかなびボスターの掲示	掲示協力施設数	41施設
研究活動		
年代による特徴を反映させた市民向け骨粗鬆症予防のための教材における活用評価	研究代表者	菱沼典子 平成24年度 (聖路加看護学会看護実践科学助成基金)
看護師の「市民目線に立ったケア」を育むリフレクシオンプログラム	研究代表者	高橋恵子 平成24～25年度 (文部科学省科学研究費助成事業 高橋科研)
<活動報告>		
研究論文：看護大学が開設している市民のための聖路加健康ナビスボット「るかなび」の活動評価	高橋恵子、菱沼典子、山田雅子他 (2013)	聖路加看護大学紀要, 39, 47-55
研究発表：市民向け健康講座＆コンサートの評価-聖路加看護大学での初回参加者のアンケート結果から-	佐藤直子、高橋恵子、菱沼典子他 (2013)	第17回聖路加看護学会学術大会, 43
Academic Nursing Practice at St. Luke's College of Nursing in Japan, Community Walk -In Health navigation" Offered on Campus	Keiko Takahashi, Michiko Hishinuma etc(2012).	The 9th International Conference with the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery.77.
WHO NEWS Community Centered Care	高橋恵子 (2013)	看護, 65 (3) . 84.

(7) 聖路加・テルモ共同研究事業

(聖路加市民アカデミー・新健康カレッジセミナー)

1. 役割

[責任者] 高橋恵子

[企画・運営・広報] 吉川政司 (テルモ株式会社)

[企画・運営] 看護実践開発研究センター教職員、
るかなび運営委員、るかなびボランティア

2. 活動内容

1) 聖路加市民アカデミー2012

開催日は、2012年10月22日 (月) 13:30-16:00
であった。内容は、「自分らしく生きるための心の準備」をメインテーマとし、少子高齢化が進む時代に

市民がよりよく生きるための心の準備について、参加者と考える講演会を開催した。

2) 新健康カレッジセミナー2012

開催日は、[講座Ⅰ] 2012年9月8日、[講座Ⅱ] 2012年11月10日、[講座Ⅲ] 2012年12月8日、[講座Ⅳ] 2013年1月12日 (土曜日14:00-15:30) であった。メインテーマは、「もっと知ろう 自分のからだ」全4回シリーズで健康講座を開催した。

3. 課題

次年度も、テルモ株式会社との連絡調整を行いながら、研究センター教職員とるかなびボランティアとの協働運営を行い、一般市民の関心に沿った講演、講座の企画を検討する。

表1 聖路加市民アカデミー

講師名	参加者数
[特別メッセージ] 自分らしい生き方：日野原重明先生 (聖路加看護学園名誉理事長) [講演] おひとりさまの最期：上野千鶴子先生 (東京大学名誉教授) [ミニコンサート] 尺八・ピアノ・ベースのコラボレーション演奏： 渡辺峨山氏、中林万里子氏、江森正敏氏	344名

表2 新健康カレッジセミナー

講座	講師名	タイトル	参加者数
[講座Ⅰ]	上村昭博先生 (聖路加国際病院)	なぜなる脳出血?	51名
[講座Ⅱ]	亀井智子先生 (本学老年看護学)	家の中で転倒?	35名
[講座Ⅲ]	門伝昌己先生 (聖路加国際病院)	ストレスや生活習慣による糖尿病	39名
[講座Ⅳ]	西裕太郎先生 (聖路加国際病院)	気をつけよう高血圧!	43名

(8) 福島県災害支援プロジェクト

1. 役割・職務

大橋靖雄東京大学教授が理事を務める NPO 法人日本臨床研究支援ユニット (以下 J-CRSU) が立ち上げた「きぼうときずなプロジェクト」との協力関係のもと、2011年4月より継続している福島県の東日本大震災の被災者支援活動であり、2012年度は J-CRSU と行政 (いわき市、富岡町) との業務委託契約のもと支援活動が展開され、本学では本学に縁のある保健師・看護師のボランティア派遣や、支援活動の学会発表、訪問活動で得られた研究

データの分析 (計画) 等を通して支援活動に関わった。

2. 活動内容

1) 組織

J-CRSU がいわき市、富岡町と交わした業務委託契約に基づき、研究センター客員研究員の石井苗子と鈴木陽子が主なコーディネーターとして現地ニーズに基づいた支援活動を企画し実行した。

2) 保健師・看護師の募集

J-CRSU が雇用する派遣要員の保健師・看護師をサポートするかたちで、本学教員、大学院生、卒業

生、本学認定看護師教育課程訪問看護コース修了者等に声をかけ、福島県内で活動可能な人材を募集した。その結果、2013年3月末までにのべ72名の看護師・保健師をいわき市、郡山市に派遣することができた。

3) 活動期間

2012年4月1日～2013年3月31日

4) 活動内容

支援活動：

いわき市では市の行政保健師の指示のもと、要継続支援ケースの訪問に加え、仮設住宅・借上住宅・県特例住宅に避難している住民の2年度目の全戸訪問を実施した。訪問世帯は3,258件、本学の呼びかけによるボランティア参加者は28人であった。また避難住民の健康状況を把握するための健康調査を実施、約1,000件の調査データが収集された。本学では、大和証券ヘルス財団からの研究助成金を受け、2012年度に収集された健康調査データの集計・分析を2013年度に行う予定。

富岡町への支援活動は、郡山市内に行政機能を移転している富岡町の行政保健師の指示のもと、郡山市内に非難している富岡町民へ実施された。5月と6月には株式会社岩城のかあさんの協力を得て、おかず箱プロジェクトを実施した。岩城のかあさんから、商品である、1食分のおかずの真空パックが50種類入ったおかず箱の提供をうけ、50世帯に配布、

アンケートを実施した。アンケートの結果を集計し、富岡町の健康づくり対策へ役立てた。また2012年10月から2013年3月まで土日の訪問活動を実施し、延べ19人の保健師・看護師を派遣、44世帯を訪問した。

学会発表：

2012年7月1日に神戸で開催された The 9th International Conference of Global Networks of WHO Collaborating Centres for Nursing & Midwifery Development で、Disaster Nursing Project のポスター展示を行い、2011年度のきぼうときずな活動を発表した。

5) 活動資金の調達

基本的に活動に必要な、交通費、宿泊費、車輛維持費等については、行政から J-CRSU への業務委託金、J-CRSU への寄付金より支出。大学としては、教職員、同窓会等へ寄付を呼びかけるとともに、大和証券ヘルス財団より研究助成金を受けた。

3. 課題

いわき市、富岡町とは引き続き業務委託契約を交わす予定。また2013年度は福島県相双健康保健福祉事務所いわき出張所との業務委託も検討中であり、いわき市に避難する他市町村の支援活動も行う予定。行政と協働し、変化する避難住民の健康ニーズに対応した支援活動を行うことが求められる。

4. 資料・データ

表 2012年度活動実績

活動地	活動期間	活動内容	件数		参加人数 (のべ)
			(世帯数)	(その他)	
いわき市	4～3月	全戸訪問(二巡目)	3258		425
		継続支援ケース訪問	138		
		健康調査		*1737	
		交流会参加		**33	
郡山市 (富岡町)	6月	おかず箱プロジェクト: 株式会社いわきの母さんの商品であるおかず箱を配布、食生活及び行動変容についてのアンケートを集計し、健康づくり対策に活かす	50		8
	10～3月	土日での借上げ住宅訪問	44		19
合計			3440		452

*調査対象者数、**参加回数